研究活動の概要
この10数年間は、教育改革の時代であると言われておりますが、今年度は、新世間指導実施の移行と本格実施に向けての対応、評価の在り方の見直し等、教育改革の実現に大きく踏み出した年であります。

この中でも、県中教研は、「心豊かで自立学ぶ生徒の育成」をテーマに、各学校の教育実践を通じて組織的・計画的に研究を促進し、当県中学校教育の拡大展開のため努力してまいりました。

主な事業内容は、県費補助事業としてのⅠ型・Ⅱ型・Ⅲ型の研究会・講習会や英語弁論大会の開催、第3次事業「学習指導改善調査研究」（その2）の第2期目の調査研究、都市中教研の研究活動等であります。

県費補助事業の研究会・講習会では、中学校教育の課題解決の方法を示唆する優れた成果をあげていただきました。指定校としての真摯な研究実践に心から敬意と感謝を申し上げます。更に、第3次事業は、本年度、審査ともに拡大した形で、生徒対象の授業と学習の体系に関するアンケート調査及び国語・数学・英語を学年ごとに当該学年までの学習内容の定着に関する調査を実施いたしました。事業を通じていただきました調査研究委員会、御協力いただきました調査校の各校に厚くお礼申し上げます。

また、今年度の第40回部長教育賞において、県下全中学校全員で10年半ぶりに改めました独自の調査研究事業である「学習の促進要因を突き止める調査研究」『学習指導等調査研究』及び現在も継続中の「学習指導改善調査研究」等の成果が評価され、最優秀賞を受賞することができました。これまでの間、調査研究を通じて実現されましました哲理に改めて敬意を表すものであります。

今日、中学校教育は、新教育課程の本格実施に伴う対応とともに、生徒指導上の課題、学習指導上の課題である「学力の向上」など、多くの課題に対する創造的かつ柔軟な対応が求められております。こうした課題に対して、日々の実践を通じてとらえることができが学校教育に課された責務であります。県中教研は、昭和38年に始まり今日まで各種の事業を積極的に行い、多くの成果をあげてまいりました。今課題のある研究と実践が組織を通じて果たされ、その成果が各校に広がり、各校の課題解決のために有効に活用されるものと確信いたします。

県中教研の事業推進に当たって御指導を賜りました県教育委員会はじめ御協力くださいました各地区・都市中教研の皆様方に心からお礼申し上げます。新年度への決意を新たにいたす次第であります。
目次

新潟県中学校教育研究会会長 梅山 鏑雄

Ⅰ 平成3年度 団体基盤及び評議員

Ⅱ 平成3年度 16研究会全県部長・副部長 学習指導改善調査研究事業委員長等

Ⅲ 平成3年度 運営方針及び事業計画

Ⅳ 平成3年度 支入支出予算

V 平成3年度 県費補助事業の概要

1 研究会・講習会等の実施状況一覧

2 I型事業（研究会）の概要

(1) 社会（2）理科（3）美術（4）英語（5）進路指導（6）学校経営

3 II型事業（講習会）の概要

(1) 数学（2）進路指導（3）学校経営（4）音楽

4 III型事業（研究会）の概要

(1) 数学（2）音楽（3）英語（4）学校経営（5）学校経営

V 県中学校英語奨励大会の概要

VI 平成3年度 各地区・郡部中学校研究活動の概要

1 各地区・郡部活動内容の概要一覧

2 上越地区研究活動の概要

(1) 上越市中学校（2）柏崎市中学校（3）魚沼市中学校（4）新壁市中学校

(5) 立浪郡中学校（6）上越市立中学校（7）中越郡中学校

3 中越地区研究活動の概要

（中越地区会長）普沢 均

(1) 長岡市・古志郡中学校（2）三条市中学校（3）加茂郡中学校（4）見附市中学校

(5) 小千谷市中学校（6）水戸市中学校（7）上越市立中学校（8）北魚沼郡中学校

(9) 南魚沼郡中学校（10）南蒲原郡中学校（11）三島郡中学校

4 下魚沼地区研究活動の概要

（下魚沼地区会長）渡辺 昇一

(11) 新潟市中学校（2）新津市中学校（3）新発田市中学校（4）燕市中学校

(5) 東蒲原郡中学校（6）五泉市中学校（7）村上市・岩船郡中学校（8）西蒲原郡中学校

(9) 東蒲原郡中学校（10）北蒲原郡・豊栄市中学校（11）中蒲原郡中学校

5 佐渡地区研究活動の概要

（佐渡地区会長）渡辺 喜信

(1) 佐渡市中学校（2）佐渡郡中学校

VII 県中学校第三次事業（学習指導改善調査研究 その2）の概要

VIII 平成4年度 各研究部の重点活動

IX 中学校奨励事業（研究会・講習会等）の運営

X 第40回幼児教育賞「最優秀賞」受賞者一覧

XI 中教研究(3)年度の活動概要

 XII 平成3年度 会務の概要一覧

(付) 新潟県中学校教育研究会会則 2 新潟県中学校教育研究会運営細則

3 新潟県中学校教育研究会の常勤及び後援に関する綱領

4 新潟県中学校教育研究会役員表彰に関する内規

表紙・題字　中島 潮（元県中教育事務局長）

1 平成3年度 団体基盤及び評議員

目的 この会は、新潟県中学校の教育研究活動を推進し、その振興発展をはかる。

役職名 氏名（当任および公職名） 役職名 氏名（当任および公職名）

会長 梅山 鏑雄 上越市立中学校長

副会長 柏崎市立第一中学校長 新発田市立中学校長

事務局長兼 理事 岩船郡中学校長 新発田市立中学校長

理事 川崎篤（新潟県立中学校長） 川崎篤（新潟県立中学校長）

会計監査 岩船 均（新発田市立中学校） 佐丸 均（新越市立中学校）

構成員の資格および要件

新潟県中学校教育研究会会員 5,718名

会員分布 市町村別

事務所所在地

〒 951 新潟市秋葉区天塚 1-8 浦川ビル5F

電話（025）288-1921

本部事務所の所在地

事務所 山田 昭一（長岡市立中学校）

事務職員

1. 会長：梅山 鏑雄（上越市立中学校長）
2. 副会長：柏崎市立第一中学校長、新発田市立中学校長
3. 事務局長：岩船郡中学校長、新発田市立中学校長
4. 理事：川崎篤（新潟県立中学校長）
5. 会計監査：岩船 均（新発田市立中学校）、佐丸 均（新越市立中学校）
平成3年度
学習指導改善調査研究事業委員長等

<table>
<thead>
<tr>
<th>番号</th>
<th>部 会</th>
<th>16 研 究 部（全県）</th>
<th>学習指導改善調査研究</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>1</td>
<td>国 語</td>
<td>佐藤 仁 (西尾・堤志中)</td>
<td>○本部委員長</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td>(上尾・堤志中)</td>
<td>特別委員</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td>海老名 二郎 (西尾・岩室中)</td>
<td>緒方 学 (新潟大学)</td>
</tr>
<tr>
<td>2</td>
<td>社 会</td>
<td>佐久間 昭夫 (長岡・松崎中)</td>
<td>委員長</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td>五百川 清 (新潟・木戸中)</td>
<td>長岡・東中</td>
</tr>
<tr>
<td>3</td>
<td>数 学</td>
<td>海津 和信 (新潟・山崎中)</td>
<td>委員</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td>本間 健 (松崎・東中)</td>
<td>梅山部 進 (長岡・東中)</td>
</tr>
<tr>
<td>4</td>
<td>理 科</td>
<td>相澤 陽一 (柏崎・第一中)</td>
<td>桐野 執行 (長岡・上中)</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td>小野 賢一 (新潟・下山中)</td>
<td>古河 安 (新潟・松崎中)</td>
</tr>
<tr>
<td>5</td>
<td>音 楽</td>
<td>小田 喜光 (寺尾・秋宮中)</td>
<td>相澤 陽一 (柏崎・第一中)</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td>富柳 政仁 (北浦・加治中)</td>
<td>北條 一郎 (新潟・上山中)</td>
</tr>
<tr>
<td>6</td>
<td>美 術</td>
<td>富山 徹 (新潟・松崎中)</td>
<td>佐藤 孝 (柏崎・第一中)</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td>地原 正夫 (柏崎・松崎中)</td>
<td>安藤 賢二 (新潟・山崎中)</td>
</tr>
<tr>
<td>7</td>
<td>保健体育</td>
<td>工藤 信明 (北浦・南中)</td>
<td>高宮 正 (长岡・東中)</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td>江口 典雄 (北浦・関西中)</td>
<td>佐藤 一雄 (長岡・東中)</td>
</tr>
<tr>
<td>8</td>
<td>技 術</td>
<td>菊池 慎二 (刈羽・刈羽中)</td>
<td>海津 和信 (新潟・山崎中)</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td>岡部 弘文 (新潟・関西中)</td>
<td>高宮 正喜 (長岡・東中)</td>
</tr>
<tr>
<td>9</td>
<td>家 庭</td>
<td>青木 和子 (長岡・城東中)</td>
<td>菅藤 奈美 (新潟・上山中)</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td>山田 駿 (長岡・城東中)</td>
<td>安藤 賢二 (新潟・上山中)</td>
</tr>
<tr>
<td>10</td>
<td>英 語</td>
<td>髙宮 正喜 (見附・今町)</td>
<td>○調査委員長</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td>目黒 良作 (見附・今町)</td>
<td>特別委員</td>
</tr>
<tr>
<td>11</td>
<td>道 徳</td>
<td>大森 忠彦 (西尾・岩室中)</td>
<td>近藤 健信 (柏崎・小国中)</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td>金原 康夫 (長岡・東中)</td>
<td>本田 芳朗 (新潟・関西中)</td>
</tr>
<tr>
<td>12</td>
<td>特別活動</td>
<td>佐藤 康信 (刈羽・松崎中)</td>
<td>近藤 健信 (新潟・関西中)</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td>佐藤 康信 (柏崎・小国中)</td>
<td>近藤 健信 (新潟・関西中)</td>
</tr>
<tr>
<td>13</td>
<td>生徒指導</td>
<td>成田 三美 (新潟・松崎中)</td>
<td>佐藤 一郎 (柏崎・第一中)</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td>林 克次郎 (長岡・西中)</td>
<td>高宮 正喜 (長岡・東中)</td>
</tr>
<tr>
<td>14</td>
<td>道路指導</td>
<td>高橋 士郎 (新潟・新潟中)</td>
<td>数学調査委員長</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td>五十嵐 恒夫 (長岡・松崎中)</td>
<td>海津 和信 (新潟・山崎中)</td>
</tr>
<tr>
<td>15</td>
<td>学校経営</td>
<td>山田 登 (柏崎・池田中)</td>
<td>藤原 恒 (新潟・山崎中)</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td>柳 一 (新潟・五日町中)</td>
<td>英語調査委員長</td>
</tr>
<tr>
<td>16</td>
<td>義務</td>
<td>海野 潔子 (中堅・池田中)</td>
<td>髙宮 正喜 (柏崎・第一中)</td>
</tr>
</tbody>
</table>
| | | 岩田 秀 (新潟・中之島中) | \(12 \text{万円})

平成3年度
運営方針及び事業計画

心豊かで自ら学ぶ生徒の育成

新潟県中学校教育研究会は、新潟県中学校長会の中心課題「心豊かで自ら学ぶ生徒の育成」を企画、次の方針のもとで事業を推進する。

1 基本方針
県中学校教育の課題解決を目指し、各中学校の教育実践を通して組織的・計画的な研究を推進する。

2 研究推進の重点
(1) 生徒の学習や生活の実態を的確に把握し、基礎学力の向上を図る。
(2) 生徒の活動を一層重視するとともに、新教育課程に関する研究を深め、教育実践の充実に努める。
(3) 地域性を尊重した研究を進め、各部会、第3次事業等との連携・協力を図り、会員一人一人の研究意欲を一層高める。

3 事業計画
(1) 県費補助事業
第1型、第2型の競技を生かした研究活動の推進を図る。

(2) 第3次事業「学習指導改善調査研究事業」
平成2～4年度計画の第2年次調査を実施する。

(3) 4部門による研究会・講習会の開催及研究成果の発行

(4) 地域活動の推進

(5) 16部門活動のための運営委員会の開催

(6) 会報第45号、46号の発行と全会員への配布

4 事業推進上の留意点
地域、部門、教員、16部門、指定研究会等との連携を密にすることを努める。
県中教員の研究活動の成果を生かすよう努める。

会報等の発行の充実を図る。
### Ⅳ 平成3年度 収入支出予算書

<table>
<thead>
<tr>
<th>項目</th>
<th>3年度予算額</th>
<th>3年度予算額</th>
<th>比較（△増減）</th>
<th>備考</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>1. 会費</td>
<td>5,719,000</td>
<td>5,722,000</td>
<td>△ 10,000</td>
<td>1,000円×5,719人</td>
</tr>
<tr>
<td>2. 県費補助金</td>
<td>4,990,000</td>
<td>3,340,000</td>
<td>△ 1,650,000</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>3. 税収入</td>
<td>420,000</td>
<td>722,000</td>
<td>△ 300,000</td>
<td>厚生財団・公務員会説明会42万</td>
</tr>
<tr>
<td>4. 振替金</td>
<td>642,977</td>
<td>572,856</td>
<td>70,121</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>合計</td>
<td>11,771,977</td>
<td>10,365,856</td>
<td>1,406,121</td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

### Ⅴ 平成3年度 県費補助事業の概要

#### 1 研究会・講習会等の実施状況一覧

<table>
<thead>
<tr>
<th>県事業区分</th>
<th>場所</th>
<th>期日</th>
<th>研究会名</th>
<th>主たる指導者</th>
<th>参加者数</th>
<th>総務</th>
<th>成果物等</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>1. 社会</td>
<td>小学I</td>
<td>10.22</td>
<td>生涯学習推進委員会</td>
<td>東京学芸大学教授 佐野 純治</td>
<td>123</td>
<td>B5</td>
<td>91</td>
</tr>
<tr>
<td>2. 数学</td>
<td>中学</td>
<td>10.11</td>
<td>基礎学力向上委員会</td>
<td>新潟大学附属中学校教授 金子 博教</td>
<td>71</td>
<td>B5</td>
<td>47</td>
</tr>
<tr>
<td>3. 地理</td>
<td>中学</td>
<td>10.18</td>
<td>生態の保護</td>
<td>上越教育大学教授 萩原 徳雄</td>
<td>220</td>
<td>B4</td>
<td>47</td>
</tr>
<tr>
<td>4. 物理</td>
<td>高校</td>
<td>11.14</td>
<td>一人一人の学習を支援する理科指導者</td>
<td>新潟市立大学教授 木下 孝博</td>
<td>147</td>
<td>B5</td>
<td>200</td>
</tr>
<tr>
<td>5. 生物</td>
<td>高校</td>
<td>11.7</td>
<td>豊かな表達力を育む指導者</td>
<td>信濃学園中学校 教師 林 俊子</td>
<td>53</td>
<td>B5</td>
<td>60</td>
</tr>
<tr>
<td>6. 美術</td>
<td>中学</td>
<td>11.14</td>
<td>新しい作曲家</td>
<td>長野県音楽教育振興会</td>
<td>100</td>
<td>B5</td>
<td>124</td>
</tr>
<tr>
<td>7. 体育</td>
<td>高校</td>
<td>11.15</td>
<td>健康習慣</td>
<td>新潟市立大学教授 高橋 正樹</td>
<td>70</td>
<td>B5</td>
<td>130</td>
</tr>
<tr>
<td>8. 西洋史</td>
<td>高校</td>
<td>11.29</td>
<td>開黒号・開明号</td>
<td>新潟県教育会館教授 佐藤 典員</td>
<td>102</td>
<td>B4</td>
<td>105</td>
</tr>
<tr>
<td>9. 全国市民体育大会</td>
<td>新潟県</td>
<td>10.4</td>
<td>中学生の英語による発表やすみの向上を図る</td>
<td>新潟県教育会館 教師 山崎 喜一</td>
<td>86</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
</tr>
<tr>
<td>10. 体育</td>
<td>中学</td>
<td>11.8</td>
<td>目のいいことを育てる指導者の意義</td>
<td>新潟県教育会館 教師 柳原 朗</td>
<td>169</td>
<td>B5</td>
<td>67</td>
</tr>
<tr>
<td>11. 音楽</td>
<td>高校</td>
<td>11.19</td>
<td>優れた音楽を育む指導者</td>
<td>栃木県こもしろ音楽学院 川田 幹男</td>
<td>200</td>
<td>B5</td>
<td>113</td>
</tr>
<tr>
<td>12. 講座</td>
<td>中学</td>
<td>10.1</td>
<td>生活指導</td>
<td>新潟県教育会館 教師 岩卜 一郎</td>
<td>160</td>
<td>B5</td>
<td>130</td>
</tr>
<tr>
<td>13. 専門</td>
<td>高校</td>
<td>11.4</td>
<td>学生の向上を目指す授業の改善</td>
<td>新潟県教育会館 教師 多田 香里</td>
<td>250</td>
<td>B5</td>
<td>76</td>
</tr>
<tr>
<td>14. 中学</td>
<td>中学</td>
<td>10.24</td>
<td>助手を生かす数学教育の工夫</td>
<td>新潟県教育会館 教師 井戸 美児</td>
<td>95</td>
<td>B5</td>
<td>100</td>
</tr>
<tr>
<td>15. 中学</td>
<td>中学</td>
<td>10.9</td>
<td>生活指導法を活用し、基礎学力の定着を</td>
<td>新潟県教育会館 教師 丸山 由香</td>
<td>100</td>
<td>B5</td>
<td>46</td>
</tr>
<tr>
<td>16. 全国</td>
<td>5地区</td>
<td>11月</td>
<td>健康的な生活を。。</td>
<td>新潟県教育会館主事 武藤 邦子</td>
<td>350</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
</tr>
</tbody>
</table>

(注)「講師・指導者」は1名のみ記載。詳細は各研究会の概要を参照。
２ Ⅰ型事業（研究会）の概要

【1】「社会科」教育研究会（小千谷市立小千谷中学校 10月22日（火）Ⅰ型刊）

新潟県中学校教育研究会社会科部
佐久間 昭夫
小千谷市立小千谷中学校教育研究会会長
小林 正利
小千谷市立小千谷中学校長
小林 正利

１ 研究活動の概要

（1）研究活動
「生徒が課題意識を持ち、追究する社会科授業を求めて」
——教材の選択肢と単元構成の工夫——

（2）期日
平成3年10月22日（火） 会場 小千谷市立小千谷中学校 参加者数 121名

（3）講師
東京学芸大学教授 佐藤 昌平

（4）全体会
研究発表 佐藤 英夫（小千谷市立小千谷中学校教諭）

（5）公開授業

① 第1学年 単元名 「歴史時代 —— 平安時代との比較を通して」

② 第2学年 単元名 「身体の地域 —— 小千谷そばを中心として」

③ 第3学年 単元名 「住民の生活と地方自治 —— 高齢化問題を通して」

（6）分科会

① 第1分科会 「歴史」

課題選択学習・小集団学習の位置づけ

・学習課題の設定

発表者 小千谷中学校教諭 井上敏幸
司会者 小岡中学校教諭 渡辺 武輝
指導者 小千谷中学校 福原 紘之

発表者 小千谷中学校教諭 藤井 聖歌
司会者 長岡市立相馬中学校 長島 貴之
指導者 長岡市立相馬中学校 羽根木 芳昭

発表者 小千谷中学校教諭 木村 哲
司会者 池田中学校教諭 大村 祐美
指導者 三条市立教諭 三原 俊樹

② 第2分科会 「地理」

資料提示について・討論の方法

・立場構成

発表者 小千谷中学校教諭 井上 敏幸
司会者 小岡中学校教諭 渡辺 武輝
指導者 小千谷中学校 福原 紘之

発表者 小千谷中学校教諭 藤井 聖歌
司会者 長岡市立相馬中学校 長島 貴之
指導者 長岡市立相馬中学校 羽根木 芳昭

発表者 小千谷中学校教諭 木村 哲
司会者 池田中学校教諭 大村 祐美
指導者 三条市立教諭 三原 俊樹

③ 第3分科会 「公民」

高齢化問題と他の単元とのかかわり

・小集団学習・位置づけ

発表者 小千谷中学校教諭 井上 敏幸
司会者 小岡中学校教諭 渡辺 武輝
指導者 小千谷中学校 福原 紘之

発表者 小千谷中学校教諭 藤井 聖歌
司会者 長岡市立相馬中学校 長島 貴之
指導者 長岡市立相馬中学校 羽根木 芳昭

発表者 小千谷中学校教諭 木村 哲
司会者 池田中学校教諭 大村 祐美
指導者 三条市立教諭 三原 俊樹

④ 第4分科会 「地域」

体験の活動の設け・地域素材の教材化

・全体指導

小中学校教育事務所指導主任 大矢 聡一

新しい社会学的批評に基づき、基本の観点を見出し、教師間の指導と生徒の考え方の責任を含められた授業を創造する。しかしながら、個々の進展、知識、意欲、思考力・表現力の育成する。教室内の活動や研究の要会の一方

（7）全体会

「生徒が課題意識を持ち、追究する社会科授業を求めて」
教材の選択肢と単元構成の工夫——

（2）「理科」教育研究会 （新潟市立関屋中学校 11月14日（木）Ⅰ型刊）

新潟市中学校教育研究会理科部
相野 陽一
新潟市中学校教育研究会理学部
渡辺 昇一
新潟市立関屋中学校
本田 勝朗

１ 研究活動の概要

（1）研究活動
「一人一人の学習を成立させる理科指導のあり方」
——直接観察を充実させ、科学的見方を育てる授業——

（2）期日
平成3年11月14日（木） 新潟市立関屋中学校 参加者数 17名

（3）全体会

学生発表 佐藤 英夫（新潟市立関屋中学校教諭）

研究活動と研究倫理の設定について、具体的な取り組みのための各種実践例と日常の理科授業での実践的実施事項、効果的な授業形態と「単元構造」との説明、研究成果と今後の課題について。

・分科会報告
① ② ③ つつの分科会から概要の報告

（4）公開授業
① 2年 「電気」教諭 坂井 裕之
② 3年 「大地の変化」教諭 田中 雅子
③ 1年 「星の世界」教諭 老林 功進

（5）分科会

①分科会・第1分科 指導者 坂田 正幸 殿（新潟郡東高校）
司会者 伊藤 章 （新潟市立小中学校教諭）
発表者 小川中学校（上野アイ）小川中学校（真保子）

「分野別・個別学習で発展的内容はオープンカーとしてよい、その他」

②分科会・コンピュータ利用
指導者 池田 聡昭 殿（佐野中学校）
司会者 金津 宏行 （新潟市立小中学校教諭）
発表者 宮城中学校（小野 亨）小川中学校（石坂 学）

授業に効果的なハードやソフトがある。情報の利用、実践を望む、その他。

（6）全体指導

新潟県教育庁下越教育事務所 学校指導課 指導主任 中村 公義 殿

基本を徹底し、一人一人の学習を成立させながら、生徒の良さを伸ばす個別化と、共通

化との問題点。日常の直感観察を重視し、自然を探究する能力を育てるために授業

内容の改善。コンピュータの効果的な活用と、新しい学習型に焦点を当てた評価の工夫。

（7）講演

「これからの大変化の方向と課題」 講演 横浜国立大学教授 木村 唯治

学習指導要領に環境教育が取り入れられた経路。日本における環境問題の現状と過去の

日本の課題の学習、世界に先駆けた環と実践者の紹介があり、理科教育の中で、環

境教育をどのように進めることができるかについての示唆があった。

３ 研究要項

表題は研究題目と同じ。 B5刷 98ページ 200部
（3）「美術」教育研究会（新潟県立鳥屋野中学校 11月14日（木）1型刊）
新潟県立中学校教育研究会実行部長
徳田 淳
新潟県立中学校教育研究会会長
渡辺 真司
新潟県立中学校教育研究会副会長
富藤 和幸

1 研究活動の概要
(1) 研究主題「創る喜び 今、造形教育は？
（中学校テーマ）個の発想を生かし優雅な表現に結びつける造形活動」
(2) 期日・会場・参加者数
11月14日（木）新潟県立鳥屋野中学校100名
(3) 全体会
①新潟県立中学校教育研究会実行部長あいさつ
②会場校長あいさつ
③大会テーマ、校選別テーマ及びテーマ構想図について趣旨説明
④研究部長・研究部長・舟形中学校教頭 西村 淑

（4）公開授業
①年（彫刻）「海の生物」一魚などの体形を表現する——
小新中学校教頭 山本 真介
②年（デザイン）共同制作「イメージ（アンフォーメル）ポスター」
新中学校教頭 清水 俊一
③年（工芸）「鳥の羽根」
鳥屋野中学校校長 桐原 茂子

(5) 分会合
13 個の発想を生かし、個に通じる彫刻表現の実施はどのようにしたらよいか
提案「粘土のおもしろさから発想した彫刻表現の実験」
大長中学校教頭 大久保 勝二
「鬼をくくる」
長岡・新中学校教頭 杉崎 謙
助言 下諏訪教育職員開発指導員 鳥取 宗男 司 会
⑬ 彫刻の発想を生かし、更なる発展を追求するデザイン実習をどのようにしたらよいか
提案「イメージの拡大と思考の深化」
佐渡・新中学校教頭 藤原 建夫
「多様な発想を促すデザイン学習とは」
上越・雄町中学校教頭 宮村 俊英
助言 上越・雄町中学校教頭 藤川 義一 司 会
⑤「材料的特徴や用途を合わせて個の発想を生かしながら意想的に表現する工芸実習はどうのようなしたらよいか
提案「フィーナリティア表示板の創作」
長岡・新中学校教頭 大塚 弘
「宮崎ハーネンバ」
宮崎中学校教頭 小戸 宽幸
助言 長岡・新中学校教頭 林 勇次郎 司 会 新倉・新倉中学校教頭 東条信子

2 講 演「豊かな自己表現のようすところ」
文部省教科省音楽庁 寺西 稔
未知の世界へ挑む一発想ができる授業。それは、子供たちの持てる力が全て発揮され、新たなものや発見へと向かう。冒険の連続によって自己表現がなされる。

研究紀要「美術（研究主題と同じ）」

3 研究記要「英語」教育研究会（新潟県立鳥屋野中学校 11月15日（金）1型刊）
新潟県中学校教育研究会英語部長
高宮 正喜
新潟県立中学校教育研究会会長
本間 健
新潟県立中学校教育研究会副会長
相澤 陽一

1 研究活動の概要
(1) 研究主題「積極的に英語でコミュニケーションを図ろうとする生徒の育成」
（聞き手と話し手が深く関わり合う学習活動を通して）
(2) 期日・会場・参加者数
11月15日（金）新潟県立中学校教育研究会
70名
(3) 指導者
新潟県教育庁中学校教育課長 信英 信英
三島市立江原中学校教頭 佐川 通 楓
(4) 全体会
研究発表
新潟県立中学校教頭 岩尾 幸和

公開授業
①年（英語）「聞き手と話し手」
聞き手と話し手からとらえた「積極的に英語でコミュニケーションを図ろうとする生徒」の定義と聞き手の行動について（研究主題）
聞き手の育成と聞き手と話し手の関わり合いによる環境設定の必要性について（研究主題の解説、研究指導）
聞き手と話し手の関係と役割と環境と関わり合いのための方法に重点をおいた授業実際の紹介
研究会のまとめと今後の課題
②年（英語）「to～不定詞 Lesson 8」
第一中学校教頭 斎藤 真
③年（英語）「関係代名詞を用いた言語活動」
第一中学校教頭 清水 亮
AET Stephen Cacciatore

協力者
協力者
協力者
協力者
協力者

講演
講演
講演
講演
講演

新潟大学教育学部教授 高橋 正夫

聞き手の活動とは互いにかかわるものである。コミュニケーションを主体に考えた授業であれば、あまり動的に考えず、表情や動作で反応すればそれでよいと考え方がある。しかし、スピーチを精力的に行うことが必要である。また、教室内の交流が少なくなる。教員の教える役割と必要である。

研究記要「積極的に英語でコミュニケーションを図ろうとする生徒の育成」
B5判 60ページ 130部
1 研究活動の概要
(1) 研究活動「若き者を育てる道徳指導のあり方」
——自己理解を深めるための指導——
(2) 期日・会場・参加者数 9 月 8 日（金） 村上市立村上市中学校 160 名
(3) 履 務 新潟市立大学助教授 松井 髙二 殿
(4) 全体会
* 研究発表 木村 三千 (岩手県立車上中学校教諭)
* 研究の概要（目的設定の理由・研究推進の方向・研究推進の方向・研究推進の方向・研究推進の方向）
* 研究の成果（実際・実績の研究・学級活動の研究）
* 研究のまとめと今後の課題（まとめと今後の課題）
(5) 公開授業
* 1 年 4 群 「自分を知る」 教諭 佐藤 康也
* 2 年 5 群 「職業興味と進路計画」 教諭 長谷川和志
* 3 年 6 群 「自己理解に基づく進路選択」 教諭 萩原 像人
(6) 分会
* 1 年教会
  - 指導者の地区指導主事 矢野 一信 殿
  - 司教者北村 小泉学督館教諭 佐藤 亮司 殿
  - 講演者谷野光男 殿
* 2 年教会
  - 指導者の教育理事役中野 三智 殿
  - 司教者 上川村立中学校教諭 長谷川和志
  - 講演者 村上 新之助 殿
* 3 年教会
  - 指導者の教育理事役中野 三智 殿
  - 司教者 岩手県立車上中学校教諭 坂本 博之 殿
  - 講演者 岩手県立車上中学校教諭 佐藤 光則 殿
(7) 全体指導
  - 新潟市立大学助教授 松井 髙二 殿
2 講演
「新潟市立大学の教育のあり方」 新潟市立大学助教授 松井 髙二 殿
3 研究要旨
「目的意識を育てる道徳指導のあり方」 B5 列 P67・180 部
——自己理解を深めるための指導——
3 Ⅱ型事業（研究会・講習会）の概要

(1) 「数理」教育研究会（新潟県立長岡高等学校 河合 信）
新潟県中学校教育研究会数学部長
北越教育学会数学科教育研究会会長
長岡高等学校長

1 研究活動の概要

(1) 研究主題「基礎学力の向上をめざした指導の工夫」
教員の活用をとおして

(2) 期日・会場・参加者
期日：10月11日（金）
会場：加治川村立加治川中学校
参加者：71名

(3) 研究発表

<table>
<thead>
<tr>
<th>項目</th>
<th>枠</th>
<th>内容</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>経過報告</td>
<td>加治川村立加治川中学校 教諭 紺沼 英雄</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>実践報告</td>
<td>1</td>
<td>中条町立中条中学校 教諭 福川 裕文</td>
</tr>
<tr>
<td>実践報告</td>
<td>2</td>
<td>信濃村立信濃村中学校 教諭 川村 英治</td>
</tr>
<tr>
<td>実践報告</td>
<td>3</td>
<td>坂東市立坂東中学校 教諭 松浦邦代</td>
</tr>
</tbody>
</table>

(4) 公開授業
第3学年「円の位置」

加治川村立加治川中学校 教諭 秋山 和明

(5) 協議会
司会者 中条町立中条中学校 教諭 近藤 富雄

研究発表者 新潟大学教育学部附属新潟中学校校長 金子 博雄

研究発表
「数理の中で、観察力、操作性のある教具を活用し、体験的な学習をすすめ
ならば、生徒の意思的な学習活動が促され、基礎的・基本的・内容の定着
が図られるであろう。」

(6) 全体指導
新潟大学教育学部附属新潟中学校校長 金子 博殿

教材の選択・教科書の選択
教材の有効性について
学力をつけるにどうしたらよいか

2 研究記要
「基礎学力の向上をめざした指導の工夫」

研究会委員
B5判 56ページ

B5判 10ページ

(2) 「進路指導」教育研究会（西暦郡厚生町立青谷中学校 10月29日（日）II型刊）

新潟県中学校教育研究会進路指導部会

高橋 士郎

（西暦郡厚生町立青谷中学校 教諭）

1 研究活動の概要

(1) 研究主題「確かなる目標をもって、生き生きと活動する生徒の育成」

(2) 期日・会場・参加者
10月29日（火）
厚生町立青谷中学校
200名

(3) 講師
石川 信雄

（西暦郡厚生町立青谷中学校 教諭）

(4) 公開授業

全体制 教育発表
小田島 花重（西暦郡厚生町立青谷中学校 教諭）

- 研究の概要（研究主題の意義、研究の方法、研究の概要、研究の取り組み、研究の成果）
- 研究の実際（各推動部における具体的な研究実践事項）
- 研究のまとめと今後の課題

(5) 公開授業

内容としての生き方・在り方を大切にした進路指導の場は、各教科、道徳、特別活動の「授業」であるという考え、全15クラスの公開授業を行った。ここでは、学習活動の授業の実例を紹介する。

- 1年2組 学習活動（ソフトウェア活動を進めよう）
  教諭 山本 勝子
- 1年3組 学習活動（働く人々へ 稼働指導）
  教諭 木原 智一
- 1年4組 学習活動（音楽日本に向けて）
  教諭 長谷 淑子
- 2年1組 学習活動（職業の中 - 稼働指導）
  教諭 今井 純一
- 3年3組 学習活動（進路の選択 - 稼働指導）
  教諭 杉山 眞一
- 4年5組 学習活動（学習の重要問題・進路の解決）
  教諭 佐藤 振弘

(6) 全体指導

- 進路指導推進部「学習活動の場を中心として、主体的に進路選択ができる生徒を育成するには、どうしたらよいか」
  教師 上越教育事務所指導主任 口山 文雄
  司会者 国見川市立玉野小学校教頭 下村 克男
  指導機関 極楽寺 中村 博生 出席者 43名
- 特別活動推進部「主体的に活動する生徒を育成するには、どうしたらよいか」
  指導者 上越教育事務所指導主任 小松 桂治
  司会者 国見川市立西中学校教頭 大島 順一
  指導機関 極楽寺 中村 博生 出席者 41名
- 教科指導推進部「確かなる目標意識をもち、主体的に進路選択する生徒を育成するには、どうしたらよいか」
  指導者 上越教育事務所指導主任 沢野 俊雄
  司会者 国見川市立小学校教頭 小川 誠一
  指導機関 極楽寺 中村 出席者 45名
- 家庭指導推進部「学校・家庭・地域における教育を十分に行うため、それぞれの役割を働き
  達し、教育の一層の深めは、どうしたらよいか」
  指導者 国見川市立小学校教頭 森下 久雄
  司会者 国見川市立小学校教頭 森下 久雄 出席者 66名

(7) 全体指導

新潟県教育庁義務教育課指導主任 高橋 武之

講演「島の旅があるから、人間には働くことがある」

石川 信雄

（西暦郡厚生町立青谷中学校 教諭）

研究記要「確かなる目標をもって、生き生きと活動する生徒の育成」B5判 113ページ

200名
【（3）「学校教育」教育研究会 (三條市立第一中学校 10月4日 (金) II型刊)】
新潟県中学校教育研究会学校経営部 長 陣 田 支
三条市中学校教育研究協議会会長 石 塚 三千雄
三条市立第一中学校長 石 塚 三千雄

1 研究活動の概要

(1) 研究主題 「学力の向上を目指す。授業の改善」
　　基礎的・基本的事項が身につく授業 ——

(2) 期日・会場・参加者数 10月4日 (金) 三条市立第一中学校 250名

(3) 全体発表・研究発表 「研究の概要」 教授 藤原 俊信
　学力の向上を目指して、基礎的・基本的事項が身につく効果的な指導方法を工夫してきた。

【（4）分科会】
国語科分科会 指導者 寺田町立寺泊中学校教員 木村孝太郎 殿
社会科分科会 指導者 三条市教育委員会指導主事 宍原 徹郎 殿
数学科分科会 指導者 三条市教育委員会指導主事 木村 秀男 殿
理科分科会 指導者 川口町立水木小学校長 蓮沼 香 殿
美術科分科会 指導者 三条市立第四中学校教諭 石橋 基之 殿
保健体育科分科会 指導者 十日町市立第一小学校教諭 湯川 敏夫 殿
技術・家庭科分科会 指導者 中越教育指導事務所主事 池谷 知子 殿
英語科分科会 指導者 三条市立大崎中学校教諭 吉田 千秋 殿

(5) 公開授業
国語 3年8組 人造の生き方 — 故郷 教諭 佐々木充子
社会 3年2組 人権を守る裁判所 教諭 小野塚 謙
数学 1年7組 1次方程式 教諭 眞野 裕作
理科 3年6組 物質とイオン 教諭 金沢 俊義
美術 1年9組 自然美や人造工と色彩 教諭 尾崎 里子
保健体育 2年1.2組(1) 習習運動 教諭 沢沼 順一
技術・家庭 1年6組 食物 — 青年期の食物 教諭 片山 昌子
英語 3年5組 Lesson 5 関係代名詞 教諭 藤原 雅典

2 開 演 演題 「学力向上の授業実践」
　開演 新潟大学教育学部助教授 桑原 勉 殿
　学力向上のための指導の在り方のポイントとしては、「着眼は大局で、着手は小局で」ということ、「ゆっくり、ゆっくり、温かく」ということの2点に配慮し、指導していくことが大切である。

3 研究記録 「学力の向上を目指す、授業の改善」 B照 判 76ページ 250部

【（4）教護（県内5地区 II型）】
新潟県中学校教育研究会登場部長 滝沢 ミチ子

1 研究活動の概要

(1) 研究主題 「健康な生活を積極的に実践する生徒の育成」
　　発達段階に即した効果的な保健指導はどうあるべきか —

(2) 研究内容
　生徒の発達段階に即した効果的な保健指導を推進するために、平成4年度までの2か年間実証的な研究実践を行うことにした。研究地区を60に分け、それぞれの地区で保健指導の具体的な研究テーマを設定した。発達段階を考慮した保健指導計画を立案し、指導案作成、各地区で実践を行った。また、地区ごとに授業公開を積極的に行い、会員相互の研修を深めた。全体では、下表のように5会場で保健指導についての研究会を開催した。

(3) 期日・会場・指導者

<table>
<thead>
<tr>
<th>地区</th>
<th>期日</th>
<th>会場</th>
<th>実践発表者</th>
<th>指導者</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>新潟</td>
<td>11月22日</td>
<td>JR東日本 新潟支社</td>
<td>新潟市立新中学校</td>
<td>新潟市立新中学校 藤原 勉 殿</td>
</tr>
<tr>
<td>下越</td>
<td>12月6日</td>
<td>新発田市立 御前町小学校</td>
<td>新対策員 東</td>
<td>新潟市立新中学校 藤原 勉 殿</td>
</tr>
<tr>
<td>佐渡</td>
<td>12月4日</td>
<td>佐渡中央会館</td>
<td>相川町立相川中学校</td>
<td>佐渡市立佐渡中学校 藤原 勉 殿</td>
</tr>
<tr>
<td>中越</td>
<td>11月28日</td>
<td>長岡市厚生会館</td>
<td>柏崎市立中越中学校</td>
<td>中越教育事務所指導主事 桃原 明子 殿</td>
</tr>
<tr>
<td>上越</td>
<td>11月27日</td>
<td>上越市社会教育会館</td>
<td>須賀川市立須賀川中学校</td>
<td>上越市教育事務所指導主事 佐藤 幸子 殿</td>
</tr>
</tbody>
</table>

(14) 指導・評価の内容
　各学校では保健指導を教育課程に位置づけ、養護教育の指導性を発揮し、保健指導が積極的に実践できるよう働きかける必要がある。養護教育が実践することができる指導内容が適切か、指導資料が活用しやすいか等の理解ができる。その結果、適切な資料を提供することができるようになる。

2 今後の研究の進め方
　保健指導の時間が確保されていない学校では、今後も根気強く働きかけをしていきたい。また研究活動を達成するために、次年度さらに実践研究を踏み上げていきたい。次年度は各地区の保健指導の実践研究を研究テーマ別にまとめ、各学校の保健指導の実践に生かしていきたいと考える。
4 Ⅲ型事業 (研究会) の概要

(1) 「数・学」教育研究会（上越市立高田中学校 10月18日（金）、19日（土） Ⅲ型）

新潟県中学校教育研究会部会長 海津 和雄
上越市立高田中学校部会長 小池 隆一

上越市立高田中学校

講師

森田 俊雄教員

(2) 「音楽」教育研究会（白根市立大泉中学校 11月7日（水） Ⅲ型）

白根市立大泉中学校部会長 小原 善
上越市立大泉中学校部会長 西埜 洋

1 研究活動の概要

(1) 研究の趣旨 「豊かな表現力を培う歌唱指導」 —— 心から歌声を楽しむ生徒の育成——

(2) 会期・会場・参加者数

11月7日（水） 白根市立大泉中学校 参加者 53名

(3) 全体会 講演テーマ 「音楽教育研究の概要について」

2 演出

「尋常不思議な音楽の旅」 古田 聖

3 参加者（研究の成果を発表）

4 音楽科における研究の概要並びに授業の反省

5 研究協議会

指導者 新潟県立新津第一中学校校長 林 昌子
司会者 白根市立白根第一中学校校長 西埜 洋

「音楽科における講義」

協議員 ①豊かな表現力を持った歌声を育てる指導法について

②効果的なパート練習の工夫や教師の役割

指導評価 新潟県立新津第一中学校校長 林 昌子

パート練習の役割について

「音楽科における講義」

協議員 ①豊かな表現力を持った歌声を育てる指導法について

②効果的なパート練習の工夫や教師の役割

指導評価 新潟県立新津第一中学校校長 林 昌子

パート練習の役割について

「音楽科における講義」

協議員 ①豊かな表現力を持った歌声を育てる指導法について

②効果的なパート練習の工夫や教師の役割

指導評価 新潟県立新津第一中学校校長 林 昌子

パート練習の役割について

「音楽科における講義」

協議員 ①豊かな表現力を持った歌声を育てる指導法について

②効果的なパート練習の工夫や教師の役割

指導評価 新潟県立新津第一中学校校長 林 昌子

パート練習の役割について

「音楽科における講義」

協議員 ①豊かな表現力を持った歌声を育てる指導法について

②効果的なパート練習の工夫や教師の役割

指導評価 新潟県立新津第一中学校校長 林 昌子

パート練習の役割について

「音楽科における講義」

協議員 ①豊かな表現力を持った歌声を育てる指導法について

②効果的なパート練習の工夫や教師の役割

指導評価 新潟県立新津第一中学校校長 林 昌子

パート練習の役割について

「音楽科における講義」

協議員 ①豊かな表現力を持った歌声を育てる指導法について

②効果的なパート練習の工夫や教師の役割

指導評価 新潟県立新津第一中学校校長 林 昌子

パート練習の役割について

「音楽科における講義」

協議員 ①豊かな表現力を持った歌声を育てる指導法について

②効果的なパート練習の工夫や教師の役割

指導評価 新潟県立新津第一中学校校長 林 昌子

パート練習の役割について

「音楽科における講義」

協議員 ①豊かな表現力を持った歌声を育てる指導法について

②効果的なパート練習の工夫や教師の役割

指導評価 新潟県立新津第一中学校校長 林 昌子

パート練習の役割について

「音楽科における講義」

協議員 ①豊かな表現力を持った歌声を育てる指導法について

②効果的なパート練習の工夫や教師の役割

指導評価 新潟県立新津第一中学校校長 林 昌子

パート練習の役割について

「音楽科における講義」

協議員 ①豊かな表現力を持った歌声を育てる指導法について

②効果的なパート練習の工夫や教師の役割

指導評価 新潟県立新津第一中学校校長 林 昌子

パート練習の役割について

「音楽科における講義」

協議員 ①豊かな表現力を持った歌声を育てる指導法について

②効果的なパート練習の工夫や教師の役割

指導評価 新潟県立新津第一中学校校長 林 昌子

パート練習の役割について

「音楽科における講義」

協議員 ①豊かな表現力を持った歌声を育てる指導法について

②効果的なパート練習の工夫や教師の役割

指導評価 新潟県立新津第一中学校校長 林 昌子

パート練習の役割について

「音楽科における講義」

協議員 ①豊かな表現力を持った歌声を育てる指導法について

②効果的なパート練習の工夫や教師の役割

指導評価 新潟県立新津第一中学校校長 林 昌子

パート練習の役割について

「音楽科における講義」

協議員 ①豊かな表現力を持った歌声を育てる指導法について

②効果的なパート練習の工夫や教師の役割

指導評価 新潟県立新津第一中学校校長 林 昌子

パート練習の役割について

「音楽科における講義」

協議員 ①豊かな表現力を持った歌声を育てる指導法について

②効果的なパート練習の工夫や教師の役割

指導評価 新潟県立新津第一中学校校長 林 昌子

パート練習の役割について

「音楽科における講義」

協議員 ①豊かな表現力を持った歌声を育てる指導法について

②効果的なパート練習の工夫や教師の役割

指導評価 新潟県立新津第一中学校校長 林 昌子

パート練習の役割について

「音楽科における講義」

協議員 ①豊かな表現力を持った歌声を育てる指導法について

②効果的なパート練習の工夫や教師の役割

指導評価 新潟県立新津第一中学校校長 林 昌子

パート練習の役割について

「音楽科における講義」

協議員 ①豊かな表現力を持った歌声を育てる指導法について

②効果的なパート練習の工夫や教師の役割

指導評価 新潟県立新津第一中学校校長 林 昌子

パート練習の役割について

「音楽科における講義」

協議員 ①豊かな表現力を持った歌声を育てる指導法について

②効果的なパート練習の工夫や教師の役割

指導評価 新潟県立新津第一中学校校長 林 昌子

パート練習の役割について

「音楽科における講義」

協議員 ①豊かな表現力を持った歌声を育てる指導法について

②効果的なパート練習の工夫や教師の役割

指導評価 新潟県立新津第一中学校校長 林 昌子

パート練習の役割について

「音楽科における講義」

協議員 ①豊かな表現力を持った歌声を育てる指導法について

②効果的なパート練習の工夫や教師の役割

指導評価 新潟県立新津第一中学校校長 林 昌子

パート練習の役割について

「音楽科における講義」

協議員 ①豊かな表現力を持った歌声を育てる指導法について

②効果的なパート練習の工夫や教師の役割

指導評価 新潟県立新津第一中学校校長 林 昌子

パート練習の役割について

「音楽科における講義」

協議員 ①豊かな表現力を持った歌声を育てる指導法について

②効果的なパート練習の工夫や教師の役割

指導評価 新潟県立新津第一中学校校長 林 昌子

パート練習の役割について

「音楽科における講義」

協議員 ①豊かな表現力を持った歌声を育てる指導法について

②効果的なパート練習の工夫や教師の役割

指導評価 新潟県立新津第一中学校校長 林 昌子

パート練習の役割について

「音楽科における講義」

協議員 ①豊かな表現力を持った歌声を育てる指導法について

②効果的なパート練習の工夫や教師の役割

指導評価 新潟県立新津第一中学校校長 林 昌子

パート練習の役割について

「音楽科における講義」

協議員 ①豊かな表現力を持った歌声を育てる指導法について

②効果的なパート練習の工夫や教師の役割

指導評価 新潟県立新津第一中学校校長 林 昌子

パート練習の役割について

「音楽科における講義」

協議員 ①豊かな表現力を持った歌声を育てる指導法について

②効果的なパート練習の工夫や教師の役割

指導評価 新潟県立新津第一中学校校長 林 昌子

パート練習の役割について

「音楽科における講義」

協議員 ①豊かな表現力を持った歌声を育てる指導法について

②効果的なパート練習の工夫や教師の役割

指導評価 新潟県立新津第一中学校校長 林 昌子

パート練習の役割について

「音楽科における講義」

協議員 ①豊かな表現力を持った歌声を育てる指導法について

②効果的なパート練習の工夫や教師の役割
（3）「英語」教育研究会  （西博原郡吉田町立吉田中学校 11月29日（金） III型）
新潟県中学校教育研究会英語部長：高宮正喜
西博原郡吉田町教育研究会会長：海老名二郎
吉田町立吉田中学校長：藤本孝則

1 研究活動の概要
（1）研究主題  「『聞くこと』『話すこと』コミュニケーション能力を高める指導法の工夫」
　教育機器の利用と英語指導助言の活用を通じて
（2）期日・会場、参加者数  11月29日（金） 吉田中学校 102名
（3）指導者  新潟県教育庁初級教育課指導主任：和泉沢 純一
　新潟県教育庁下級教育課指導主任：波入 信司 殿
（4）全体会・研究発表  吉田中学校教室  杉浦 隆夫
　研究主題と副題の意図、研究仮説設定の経過（研究内容と方法）
　研究の概要（L．SやT．Tの特性を生かした言語活動の場面設定の方法について）
　研究の結果（T．Tで「聞くこと」「話すこと」の技能向上を図る指導過程）
　（生徒自身の学習目標設定と評価活動を利用した意の向上と変容の追求）
（5）公開授業  2年5組「Lesson 10（受動態の用法）」（T．T）
　吉田中教諭  山崎 遥、A．E．T．Henry Hughes
　1年3組「Lesson 11（進行形の用法）」（L．S）
　吉田中教諭  伊佐美 学、A．E．T．Henry Hughes
（6）協議題  「『聞くこと』『話すこと』コミュニケーション能力を高める指導法の工夫」
　指導者  新潟県教育庁初級教育課主任：和泉沢 純一
　下級教育課指导主任：波入 信司 殿
　司会者  新潟市立五十嵐中学校教諭：藤原 忍
（7）指導評価（渡辺先生）
　・抽選生を始め、生徒の変容から実践の成果を知ることをできる研究である。
　　生徒の取引を十分に行ったうえで、授業改善をしていく試みはすばらしい。
　・数字による評価から脱却し、生徒自身の声を大切にして分析を行っていく評価方法はたいへん参考になった。
　・抽選生全体、個人と集団のかかわりの追求等が今後の課題である。
　（和泉沢先生）
　4 コーナーズの活動は、4技能のあらゆる活動に応用できるものである。
　J．E．T．が、A．E．T．及 T．Sの特性を十分に生かしていた実践と授業である。
　新指導要領を十分に吟味し、しっかりととした年間指導計画が確立している研究実践である。
　今後は、いろいろな意見を交流していくような小集団活動をしてほしい。

2 研究要領
「研究要領」 105ページ
「年間指導計画、言語活動の目標 Lesson Plan」 39ページ
「L．S，T．T実践例集」 157ページ
（各B4判 150部）

（4）「学校経営」教育研究会  （長岡市立加賀中学校 10月24日（木） III型）
新潟県中学校教育研究会学校経営部長：山田 純一
長岡市・加賀町中学校教育研究会会長：藤原 均
長岡市立加賀中学校長：木戸 貞男

1 研究活動の概要
（1）研究主題  「個性を生かす教育課程の工夫」
　選択教科の拡大と指導の充実を目指して
（2）期日・会場、参加者数  10月24日（木） 長岡市立加賀中学校 95名
（3）全体会発表  「研究の概要・まとめと今後の課題」 桧木中学校講演：本間 充
　「選択教科の拡大を目指す教育課程の編成」 同上教諭：田中 賢
　「選択教科の指導の内容や方法」 同上教諭：渡邉 二夫
　「中学校における選択教科の開設及び履修に関する実践的研究」を新学習指導要領に即した方向での実践を試みた。
（4）公開授業
　3年選択教科楽音  「アンサンブル・アラカルト」 教諭：古川 基子
　3年選択教科美術  「木版」 教諭：加谷 雅恵
　3年選択教科保健体育  「バレーボール」 教諭：渡邉 二夫
　3年選択教科普通一  「ろうゆつ染めによる小物の製作」 教諭：本間 充
　講師：林 章子
（5）分科会
　第1分科会  「選択教科の拡大を目指す教育課程の編成はどうあるべきか」
　指導者  中越教育課指導主任：井口 忠一
　司会者  長岡市立南中学校教諭：岸 公平 殿
　・現行学習指導要領における教育課程の編成と選択教科のあり方
　新学習指導要領における教育課程の編成と選択教科のあり方
　第2分科会  「選択教科の指導の内容や方法はどう工夫すればよいか」
　指導者  中越教育課指導主任：太田 空藤 殿
　司会者  長岡市立東中学校教諭：佐藤 忠好 殿
　選択教科の学習内容、教材の設定のあり方・工夫
　選択教科の指導のあり方・工夫・評価のあり方
（6）全体指導  中越教育課指導主任：井口 忠一
　新学習指導要領の改訂の趣旨ならびに選択教科のあり方について
　新学習指導要領に基づいた教育活動とその評価・実践について
　新指導要領の記入のしかたについて

2 研究要領  「個性を生かす教育課程の工夫」 B5判 70ページ 100部
5 県中学校英語弁論大会の概要

新潟県中学校教育研究会英語部長
高宮 正喜

1 期日・会場・参加者数
10月4日（金）13：00 ～ 16：30 万代市民会館（新潟市東万代） 85名

2 審査員
新潟大学教育学部教授
米山 朝二 殿
新潟県立新潟中央高校教諭
藤原 正夫 殿
県立女子短期大学英語指導助教
P. Quinn 殿

3 発表者

・上越地区中学校より 10名
・中越地区中学校より 4名
・下越地区中学校より 13名
計 27名

4 発表内容

B Better Understanding Of Foreigners 15 My Hope
1 My First Step To The International World 16 It's Now The Time For Us To Make A Big Leap.
3 Toward World Peace 17 An Important Thing To Remember
4 What Is Family? 18 My Grandmother
5 Why Do I Learn English? 19 My Dream
6 Discrimination 20 Whose Is This Earth?
7 Thank You Old Lady. 21 In The Internationalized Society
8 Disrimination In Japan 22 Uniform In Our Mind
9 Speak To A Foreigner 23 Protection After Destruction
10 Let's Write With A Writing Brush. 24 Heart To Heart
11 My Opinion Of Volunteer Helping The Handicapped 25 What I Learned From Rebecca
12 The Thing I Should Do Right Now 26 The Importance Of Water
13 Hand-In-Hand, Let's Heal And Protect Mother Earth 27 Why Do We Have Community Service?
14 The Joy Of Mountain Climbing

5 審査結果

発表・内容・発表態度等の観点から総合的に審査が行われ、次の3名を中部日本地区予選大会に推薦した。

・最優秀賞 龍田町立龍田西中学校 伊藤 智愛
・優秀賞 柏崎町立第三中学校 中村 奏子
・優秀賞 水原町立水原中学校 井上 舞
Ⅵ 平成3年度 各地区・郡市中教新冠務活動の概要

1 各地区・郡市活動内容の概要一覧

<table>
<thead>
<tr>
<th>1 上越地区</th>
<th>上越地区の研究活動と今後の課題</th>
<th>上越地区会長 小林 良</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>(1) 上越市</td>
<td>各部の主体的な計画に基づく実践研究</td>
<td>上越地区会長 小林 良</td>
</tr>
<tr>
<td>(2) 新潟市</td>
<td>体験的に活動する生徒の育成を目指して</td>
<td>上越地区会長 小林 良</td>
</tr>
<tr>
<td>(3) 長岡市</td>
<td>学習指導法の改善を含め、技術を活用する</td>
<td>上越地区会長 小林 良</td>
</tr>
<tr>
<td>(4) 富山市</td>
<td>自立学習の一貫性を求める</td>
<td>上越地区会長 小林 良</td>
</tr>
<tr>
<td>(5) 長岡市</td>
<td>自立学習の一貫性を求める</td>
<td>上越地区会長 小林 良</td>
</tr>
<tr>
<td>(6) 東京市</td>
<td>自立学習の一貫性を求める</td>
<td>上越地区会長 小林 良</td>
</tr>
</tbody>
</table>

<table>
<thead>
<tr>
<th>中越地区</th>
<th>中越地区郡市中教新冠務活動と今後の課題</th>
<th>中越地区会長 篠田 航</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>(1) 長岡市</td>
<td>教育実践の質の改善と充実を図る</td>
<td>中越地区会長 篠田 航</td>
</tr>
<tr>
<td>(2) 東京市</td>
<td>地域に根ざし、生徒一人一人を生かす教育の充実</td>
<td>中越地区会長 篠田 航</td>
</tr>
<tr>
<td>(3) 北海道</td>
<td>生徒の学習意識を高め、基礎学力の定着をはかる授業</td>
<td>中越地区会長 篠田 航</td>
</tr>
<tr>
<td>(4) 茨城県</td>
<td>教育実践の質の改善を目指した実践研究</td>
<td>中越地区会長 篠田 航</td>
</tr>
<tr>
<td>(5) 東京市</td>
<td>充実をめざす創意と実践</td>
<td>中越地区会長 篠田 航</td>
</tr>
<tr>
<td>(6) 北海道</td>
<td>家庭との連携を深め、道徳の実践の活性化を図る指導</td>
<td>中越地区会長 篠田 航</td>
</tr>
<tr>
<td>(7) 北海道</td>
<td>家庭との連携を深め、道徳の実践の活性化を図る指導</td>
<td>中越地区会長 篠田 航</td>
</tr>
<tr>
<td>(8) 北海道</td>
<td>家庭との連携を深め、道徳の実践の活性化を図る指導</td>
<td>中越地区会長 篠田 航</td>
</tr>
<tr>
<td>(9) 北海道</td>
<td>家庭との連携を深め、道徳の実践の活性化を図る指導</td>
<td>中越地区会長 篠田 航</td>
</tr>
<tr>
<td>(10) 北海道</td>
<td>家庭との連携を深め、道徳の実践の活性化を図る指導</td>
<td>中越地区会長 篠田 航</td>
</tr>
<tr>
<td>(11) 北海道</td>
<td>家庭との連携を深め、道徳の実践の活性化を図る指導</td>
<td>中越地区会長 篠田 航</td>
</tr>
</tbody>
</table>

2 佐渡地区 | 佐渡地区郡市中教新冠務活動と今後の課題 | 佐渡地区会長 渡辺 昇 |
<table>
<thead>
<tr>
<th></th>
<th></th>
<th></th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>(1) 佐渡市</td>
<td>学習実践の一貫性を求める</td>
<td>佐渡地区会長 渡辺 昇</td>
</tr>
<tr>
<td>(2) 佐渡郡</td>
<td>自立学習の一貫性を求める</td>
<td>佐渡地区会長 渡辺 昇</td>
</tr>
</tbody>
</table>

2 上越地区研究活動の概要

上越地区研究活動と今後の課題

<table>
<thead>
<tr>
<th>上越地区会長 小林 良</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>(1) 地区中教新冠務活動</td>
</tr>
<tr>
<td>(2) 地区中教新冠務活動</td>
</tr>
</tbody>
</table>

2 県教務事業研究会

<table>
<thead>
<tr>
<th>県教務事業研究会（1型）</th>
<th>10月28日</th>
<th>参加者190名</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>研究発表</td>
<td>「生き生きとした学校生活を考える生徒の育成」</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>活動報告</td>
<td>「生き生きとした学校生活を考える生徒の育成」</td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

3 上越地区中教新冠務活動の特徴と今後の課題

上越地区における研究活動は、小・中一体である研究が行われ、近年中・高の連携活動を通じた連携を深めて来ている。

研究の方向は、県中教新冠務活動を「心豊かで自立学ぶ生徒の育成」に向けた研究を重視し、特に主体性を重視し、自立学ぶ姿勢を目指した授業改革を進める研究が行われている。

今後の課題としては、小・中・高の連携を深める中から、一貫した指導体系の確立を図り、求めて学ぶ生徒の育成に努めることである。
[1] 上越市中教研究活動の概要

各部の主な活動に計画に基づく実践研究

上越市中学校教育研究会会長 小池 眞一
同 副会長 岩野 良平

1 研究活動の推動

市の中教研究活動は、小学校の研究活動と連携を図りながら、校教員及び専門家と提携し、年間計画に基づいて実践研究を推進している。各部においては、小委員会を設置し、研究活動の設定、研究推進計画の立案などの働きかけを行うため、効率的な運営に努めている。

2 研究活動の概要

(1) 各教科の研究活動（専門部は略）

・国語「読みを深める指導のあり方を探る～圈で活動を効果的に取り入れた指導の工夫～」

・社会「一人一人の見方、考え方に転じる社会科指導のあり方」

・数学「生き方をたとえ問題解決を育てる算数・数学科教育」

・理科「基礎的との向上をめざす指導の工夫」

・音楽「音楽を愛好し、豊かに表現するために学習指導をどのように改善したらよいか」

・美術「新指導要領にもとづくカリキュラムの構想と授業研究」

・保育「球技指導の中で一人一人を生かす指導のあり方」

・家政「基礎的的な技能を備えるための指導の工夫」

・英語「コミュニケーション能力を高めるためのティーチングの工夫」

(2) 研究会の実施

5月21日(火) 春季中学校研究会において、前半が各教科部、後半に専門部会を行い、組織づくりや活動の方向を確認。細部については、各小委員会での検討を待つ。

11月28日(火) 各教科部は各教科部（国・美・英・歴史・社会）を全教科で、研究部は、実践発表、研究発表、研究協議、講演等でそれぞれの計画に基づいて実施した。また、各小委員会は期日を前後して実施され、実践発表、研究発表、研究協議等が行われた。

(3) 学校教育研究会（県中教研Ⅰ型）の開催

10月1日(土) 市中学校実践研究部 参加者数190名 公開発表 6学級

研究主題「生き生きと充実した学校生活を目指す生徒の育成」の学級で発表を生かして～

全体指導 新潟県教育庁上越教育事務所指導主事 渡辺 勝 も 校長

指導 上越教育大学助手教授 若井 勝 一

11月1日(日) 第40回北陸四県数学教育研究（上越大会）（県中教研Ⅱ型）の開催

10月18日(日) 19日(土) 市中学校実践研究部 参加者数220名 公開発表 5学級

研究主題「生きまでもってが問題解決力を育てる算数・数学科教育」の学級で発表を生かして～

中央教育研究部講演 上越教育大学教授 森 田 俊 雄

指導 日本教育評価研究会 原 田 泰 夫

3 研究成果の刊行

各教科部、専門部の「研究のまとめ」B5判 約60ページ

[2] 柏崎市中教研究活動の概要

主体的に活動する生徒の育成を目指して

柏崎市中学校教育研究会会長 本間 健
同 副会長 高宮 正

1 研究活動の推進

当市での中教研究小研究会を組織し、教科学・各教科学等の研究を進める。研究の推進にあたっては、中学校のもの、小・中合同のもの、中・高合同のもの、各研究部会のものをそれぞれ研究者の指定を行い、連携して研究発表会等を実施している。

2 研究活動の概要

(1) 各部の主な活動

・国語対……会議発表、夏研究発表会

・社会対……指導研究、指導研究

・数学対……授業研究、指導研究

・理科対……指導研究、研究発表会

・音楽対……指導研究、研究発表会

・美術対……指導研究、研究発表会

・保育対……指導研究、研究発表会

・家政対……指導研究、研究発表会

・英語対……指導研究、研究発表会

(2) 各種指定研究発表会

・技術・家庭科

・数学科

・ア 期 日 平成3年10月3日(火)

・イ 会場 柏崎市中学校

・ウ 指導者 中越教育事務所指導主事

・オ 参加者 47名

・エ 研究テーマ「自ら学び共に高める生徒の育成」の研究

・カ 学習指導に関連～自己評価、研究発表会

・キ 参加者 62名

・ク 参加者 47名

・LLU 研究テーマ「指導過程における評価法の工夫によって生徒の学習意欲を高める方法など～自己評価」の研究

・ル 参加者 62名

・ル 参加者 47名
学習指導研究会
学ぶ喜びをもたせる学習指導を求めて

ね川川市・西脇郡中学校教育研究会
白川昭夫

1 研究活動の推進

当該地区は、1市3町の中学校38校で学習指導研究活動が行われている。研究活動は、学校の教育活動を含め、全校的な活動として行われている。学習活動は、一人一人が学びをもたらし、意欲をもって学習に取り組む学習指導法を追求している。教材研究を通じて、個別の学習活動を通じて実践的に推し進めている。また、中学校、高等学校の連携を通じて、教材の見直しや指導法の研究を積極的に進めている。

2 研究活動の概要

今年度は、5月31日に総会、5月19日に研究会を開催し、研究の方針や研究計画を設定した。その後、関連科目を上回る有効な研究を行いうた、11月18日には、地区全体の各学校に分野として4回研究を行った。3学期には研究集会の発刊等のまとめの活動に入ること

(1) 各校の研究テーマ

① 中高の連携

② 郡内3高等学校と1学校との連携

③ 研究成果の刊行

「学習指導各校研究の概要」No.11

B5判 刊行

(4) 新井市中学校教育研究活動の概要

学習指導法の改善・充実
小・中・歴史による各教科・領域の研究

新井市中学校教育研究会
同 副会長 小森原恵夫

1 研究活動の推進

当市の学校教育研究会は、小学校と小学校が合体して組織され、多くの活躍を小・中・歴史で行っている。学習指導の研究活動は、教科部9、専門部8の17組に分かれており、全員が教科部と専門部とにそれぞれ所属する。一斉教育研究会を年2回開くほか、各教科、各専門部を散開団、実践的な研究・研究に取り組んでいる。また、市教委の研究委託を受けて、学習指導の充実をはかる研究を実行している。本年度は、新井市中で「活力と充実感を生むする指導の工夫」を研究。

2 研究活動の概要

(1) 各校の研究主題

国語 一人一人の学習意欲を高める指導法の工夫

社会 生徒の学習意欲を育む教科の工夫

数学 意欲を育む教科の工夫

理科 地域の自然を学ぶ教科の工夫

音楽 生徒の表現力を育む教科の工夫

体育 健康活動を育む教科の工夫

英語 通信の可能性を育む教科の工夫

道徳 生徒の道徳教育を育む教科の工夫

技術 生徒の技術教育を育む教科の工夫

家政 生徒の家政教育を育む教科の工夫

実践活動 中高生指導の工夫

英語 練習用の活動を育む教科の工夫

B5判 刊行

(2) 研究部会

4月 学校教育研究会総会（教科・専門部組織を含む）

5月～12月 各教科部・専門部の計画による実践的研究

11月 市学校教育研究会～専門部会

12月 重点研究講座：自己教育の授業を育む教科会～教科会会合～

12月 新井南中学校の委託研究、NIEのとりくみ第一年目の実際の研究

3 研究活動の概要

各研究活動の概要、重点研究の実践研究「新井の教育」No.40

B5判 100ページ（新井市学校教育研究会編）
【6】刈羽郡中教研究活動の概要

主調 自ら学び共に高めあう生徒の育成

生徒自らに気づかせ、考えさせ、活動させる生き生きとした学習指導の展開

刈羽郡中学校教育研究会会長 荒井 東一郎

団 副会長 長尾 康信

1 研究活動の推進

当研究は平成元年より3か年、郡部の指定を受け推進してきた。一人一人の生徒が生き生きと学習に取り組み、基礎的・基本的目標を確に身につけるよう日々の授業の質的改善を行おもむをめざし研究を推進してきた。以下年度ごとの推進推進状況を述べる。

平成元年度：①たたきのした教科内容の学習への取り組みを含めて、学ぶ自立を高める学習指導の展開

②研究計画の作成・③技術・家庭科の教科指導計画の見直しと改善、

平成2年度：①新たな指導課題の編成に基づき、技術・家庭科の男女共同授業に実験を実施。

「食物生活の基盤」を基盤とし、実践・生徒の学習状態の分析、②前期・後期の指導内容の組み替えにより、6月、9月、10月に「食物生活」における授業実践の累積。

平成3年度：①研究実践の積み重ねとための推進、②生徒一人一人に意欲が増し、互いに向上しようとする態度が身につく授業の実践、③学年全体のまとめ、反省、今後の課題。

2 研究活動の概要

(1) 技術・家庭科研究発表会の開催

ア 会場：町村市立西中学校

平成3年10月3日 晴

イ 指導者 中村教育庁

指導主任 藤口 剛

ウ 研究発表 自ら学び共に高めあう生徒の育成

西中学校教育

古川 輝司

エ 授業公開

第1学年1組 簡単な木製品の製作

西中学校教頭 尾山 敦

オ 研究協議（司会 刈羽郡小町町立小学校教頭 小原 健一）

技術・家庭科における男女共学の指導

①そののりによって主の個人差はどのような実態なのか、実態把握をして教材を選んだ方が良いのではないか。木工加工、被服では男女差を予想したが、実際によってみると個人差であった。

②教材選びにおいて、実用性を第一に考え、材料・サンプル等を提示して考察計画を設計する際の組み合わせと生徒が自分の力で判断して必要以上に複雑なものを望まない。楽しむ中で作るもの。「であろう度がやりたい」という気持ちを持たせたいものである。

③予備教材、主題に分けた予備教材でかななりの使い方、のこぎり使い方を指導の重点としていく、というように生の見通しをもって、基本構えをおさめて作品づくりへと進めていくと指導過程がスッキリとして、生徒が意欲的に取り組むので教師の指導の工夫が大切である。

3 研究成果の発行

研究要旨「自ら学び共に高めあう生徒の育成」B5判 47ページ 45部印刷

【6】東京都中教研究活動の概要

基礎学力の向上を目指す効果的な学習指導法の追求

東京都中学校教育研究会会長 猪田英生

1 研究活動の推進

本研究では、平成元年〜3年度まで「学力向上研究発表会として県教育委員会主催、数の教科研究会を受けて松山市立中学校の研究推進に協力し、実践に取り組んできた。

松山市立中学校では、その実、毎年2回公開報告を実施し、中間検査を行ってきた。本年度も6月と11月に研究発表会をもち、研究協議会では効果的な指導法について検証した。そして本年度は3年度間の研究実施をまとめ、2月20日に研究発表会を開催する。

2 研究活動の概要

(1) 研究主題 「基礎学力を高める指導の工夫」

基礎的・基本的な内容の定着を図る指導方法について

(2) 授業研究会の開催

本年度は、国語・数学・英語の3教科とも6月28日と11月21日の2回開催し、それぞれ研究協議会を開催した。ここでは、紙面は限られているので、2回目の研究発表会について述べる。

ア 会場：松山市立中学校

日時：11月21日(土) 参加者：21名

イ 指導者 上経教育大学指導主任：岩野 久雄 (国語)

同上 小竹 弥哉 (数学)

同上 丸山 信夫 (英語)

ウ 公開授業

(ア) 国語 1年「古文との出会い」指導者：教諭 山田 稔夫

(イ) 数学 2年「三角形の性質」指導者：教諭 田村 順一

(ウ) 英語 3年「間接質問文」指導者：教諭 小竹 弥哉

エ 研究協議

ア レクティックとして基礎的・基本的な内容の定着を図る指導法について

イ 協議内容 （要旨）

基礎的・基本的な内容の定着を図るための指導内容の重点化と教材の選択の検討。

(1) 例をとると、個を生かす学習形態の組み合わせの工夫とその実践例について検討。

(2) 例のとどめとその対応案及び準備は、どうあるべきか。

ウ 協力研究課題として教材の開発と工夫

(3) 一人一人の生徒が興味・関心をもち、発想を発して意欲的に取組む教材の開発と工夫

3 研究成果の発行

(1) 研究要旨 B5判 47ページ 45部

(2) 協議内容指导案 B4判
３ 中越地区研究活動の概要

中越地区都市中研研の研究活動と今後の課題

1 地区中研研の活動

(1) 第1回都市中研研会 5月2日
   © 中越地区中研研副会長選出
   © 平成3年度事業計画について
   © 平成5年度研究指定について

(2) 第2回都市中研研会 11月22日
   © 各都市の活動状況について
   © 平成5年度、6年度研究指定について

2 県費補助授業による研究会

(1) 学校経営（Ⅱ型） 10月4日 条三市・第一中学校 250名
   「学力の向上を目指す、授業の改善」
   ―― 基礎的・基本的事項が身につく授業 ――
   分科会、8教科（音楽を除く）

(2) 学校経営（Ⅲ型） 10月9日 加茂市・奥中学校 100名
   「生徒の学習意欲を高め、基礎学力の定着をはかる授業」
   ―― 視聴覚機器・教材はどのような役割を果たせか ――
   分科会、社会・理科・英語・保健体育

(3) 社会（1型） 10月22日 小千谷市・小千谷中学校 121名
   「生徒が課題意識を持ち、探究する社会科授業を求めて」
   ―― 教材の選択促進と単元構成の工夫 ――
   分科会、1年歴史・2年地理・3年公民

(4) 学校経営（Ⅲ型） 10月24日 長岡市・長岡中学校 95名
   「個性を生かす教育課程の工夫」
   ―― 選択教科の拡大と指導の充実を目指して ――
   他に、新潟市・刈谷田中学校で国語（適切に表現する力を育てる指導の工夫）の中間発表とし
   て、11月26日に研究発表会を行った。

3 中越地区中研研の活動と今後の課題

中越地区の各都市における研究活動は、それぞれ地域の実情を生かし内容と運営の工夫がみら
れた。本年度の研究実践は概ね次のよう分布される。

(1) 指導の過程や方法など、生徒を意欲的に取り組ませ、学力の向上に努める研究
(2) 特定の教科、領域及び教材を取りあげての共同研究
(3) 地域課題を取りあげての研究

特に授業研究が中心であり、毎日の授業で勝負できる教師を育てることが必要であろう。又、
新学習指導要領の実施に伴う研究は、各校において意欲的に研究がなされた。
(1) 長岡市・古志郡中教研研究活動の概要

教育実践の質的改善と充実を図る

長岡市・古志郡中学校教育研究会会長：藤田均
同　副会長：塩浦寛夫

1 研究活動の推進

長岡・古志郡中教は、長岡市15校、古志郡2校、会員数408名で構成する。長岡市と古志郡の中教研究組織を一本化することは運営上難しいので、長岡市中教と古志郡教が教育研究の中で研究体制を整えて、それぞれ独自性をもとしながら交流を深め、関連を図りながら研究活動を推進している。

また、次の方針のもとで研究推進をはかっている。

(1) 教科・領域ごとに研究テーマを設定して推進する。
(2) 教科・領域の指導計画、指導内容、指導方法等の研究を深める。
(3) 実践の成果を研究集録としてまとめ、次年度の活用と改善に役立てる。

2 研究活動の概要

(1) 各研究会の活動

<table>
<thead>
<tr>
<th>科学・領域</th>
<th>研　究　主　題</th>
<th>内　容　事　業</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>国語</td>
<td>重複に関する教育的見解を深める</td>
<td>授業研究、研究報告作成</td>
</tr>
<tr>
<td>社会</td>
<td>子どもの思考を深める指導のあり方</td>
<td>授業研究、講演会、他</td>
</tr>
<tr>
<td>数学</td>
<td>基礎・基本の内容を理解する指導の工夫</td>
<td>授業研究、論文会</td>
</tr>
<tr>
<td>理科</td>
<td>自然実験を用いた指導と教育の関係</td>
<td>野外研修、授業研究</td>
</tr>
<tr>
<td>音楽</td>
<td>音楽の表現を深める指導のあり方</td>
<td>授業研究、講演会、他</td>
</tr>
<tr>
<td>美術</td>
<td>良い表を生むする形態美教育</td>
<td>実技研究、美術鑑賞会</td>
</tr>
<tr>
<td>保健体育</td>
<td>五感にテーマを設定して研究を進めている</td>
<td>授業研究、実技研究</td>
</tr>
<tr>
<td>技術</td>
<td>社会・家庭の視点から教材、教法の見方</td>
<td>授業研究、実技研究</td>
</tr>
<tr>
<td>家庭</td>
<td>生き生きと学習する子供の育成をめざして</td>
<td>授業研究、実技研究</td>
</tr>
<tr>
<td>英語</td>
<td>生徒の実践を進めたい授業構成のあり方</td>
<td>授業研究、実習督导</td>
</tr>
<tr>
<td>特別活動</td>
<td>生徒の主体的活動を促進特別活動の工夫</td>
<td>研究会、研究発表作成</td>
</tr>
<tr>
<td>道徳</td>
<td>子供の心を養う活動の工夫</td>
<td>授業研究、授業資料作成</td>
</tr>
</tbody>
</table>

その他、特別教育、視聴覚教育、学習支援指導等の各研究会が活動している。
(2) 生徒指導研究会

事例研究発表 11月21日（木） 指導者：東中学校教諭 関矢、伍郎教授

3 研究の成果の刊行

各教科・領域で計画的に推進した授業研究、講習会、調査等の記録や成果を本年度に「研究集録」として刊行する。

(2) 三条市中教研研究活動の概要

地域に根ざし、生徒一人一人を尊重する教育活動の充実

三条市中学校教育研究会会長：石塚三平
同　副会長：搭場俊一

1 研究活動の推進

新学期指導計画の作成実施を2年後にして、「生徒一人一人の個性を尊重する教育」を目指しながら実施し、指導計画に取組んでいる。これをベースにして、市の中学校教育に在る問題を主体的にとらえ、その問題解決のために「地域に根ざし、生徒一人一人を尊重する教育活動の充実」を主題として、次の方針のもとで研究活動を実施してきた。

(1) 教科別会・教科外研究会の一斉研究の充実
(2) 各教科、道徳及び特別活動の地域プランの活用と改訂への取組
(3) 学校別研究会等への協力

2 研究活動の概要

(1) 教科別会・教科外研究会の研究活動・研究日

<table>
<thead>
<tr>
<th>学年</th>
<th>研究活動</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>中一</td>
<td>新学習指導要領に基づく授業指導はどあるべきか</td>
</tr>
<tr>
<td>中二</td>
<td>生徒が学習計画を自分で考え実行する工夫</td>
</tr>
<tr>
<td>中三</td>
<td>生徒が学習計画を自分で考え実行する工夫</td>
</tr>
<tr>
<td>中四</td>
<td>生徒が学習計画を自分で考え実行する工夫</td>
</tr>
</tbody>
</table>

その他、特別教育、視聴覚教育、学習支援指導等の各研究会が活動している。
(2) 生徒指導研究会

事例研究発表 11月21日（木） 指導者：東中学校教諭 関矢、伍郎教授

3 研究の成果の刊行

各教科・領域で計画的に推進した授業研究、講習会、調査等の記録や成果を本年度に「研究集録」として刊行する。
【3】加茂市中教研活動の概要

主題 「生徒の学習意欲を高め、基礎学力の定着をはかる授業」
加茂市中学校教育研究協議会会長 高野恒行

1 研究活動の推進
指導委員の改訂に伴う移行措置の研究と実践の推進および「新しい学力観」に沿った授業の
在り方と評価の方法を研究し実践する。

2 研究活動の概要

・ 学習指導研究発表会の開催
  ① 会場 加茂市立養中学校 平成3年10月9日（水） 参加者100名
  ② 指導者 中越教育事務所指導主事 平野 恵一郎

発表テーマ 「生徒の学習意欲を高める。基礎学力の定着をはかる授業」
—— 視聴覚機器・教材などの役割を果たせるか ——

発表内容の項目

・ 研究主題設定の背景と理由
・ 研究の方法（研究仮説、実践計画との関係）
・ 実践の内容（帯帯の授業計画書の作成、「授業改善の視点」とその実践化。
授業検討会の実施）

実践・研究の成果と課題

エ) 授業公開
  ① 社会科 2年2組 「中京大学地図」 加茂市立奨中学校 高倉 裕美
  ② 理科 3年1組 「物質とイオン」 同 和田 大二
  ③ 英語科 2年2組 「Lesson 7 Noise」 同 伊藤 提香
  ④ 保体科 1年3・4組男子 「バレーボール」 同 植木 一義

オ) 研究協議
  ① 上記4教科の公開を改訂（協議課題及び協議内容の詳細は省略）
  ② 分会議指導者
    ・ 社会科 禅口幸雄・加茂市立應田中学校長
    ・ 理科 前出・石戸川村立泉小学校長
    ・ 英語科 目黒文美・加茂市立今町中学校長
    ・ 保体科 田村常晃・加茂市立応田中学校長

3 研究成果の刊行
(1) 種類・体裁 学習指導研究発表会要旨 B4判 46ページ 110部
(2) 内容の概要 研究計画の概要、実践の概要、研究の成果と課題

【4】見附市中教研究活動の概要

授業の質的改善を目指した実践研究
—— 新しい学力観にした学習指導をいかに推進するか ——

見附市中学校教育研究協議会会長 大枝隆俊

1 研究活動の推進
当市の中教研は中教研と一体となって協議を組み立てる。各教科・指導・特別活動について
では、中教研の会議とし、他の領域については、中教研の会議を構成している。

研究活動は各部が主体的に取組み、研究・研究を基本にして、学校間の情報交換を行い、日
常の教育活動の充実に努めている。本年度も授業の質的改善を目指して、新しい学力観にした
研究に重点をおいて研究を進めている。

2 研究活動の概要

4月 総会、各部会、組織づくりと各部の活動計画の立案
5月 協議会、予算編集
5月〜6月 各部の計画による研究推進
8月 夏季研修 「学校教育に望むこと」 畑麻記念病院長 畑麻隆一先生の講演会
9月 レクレーション大会（全員参加のスポーツ大会）
10月〜1月各研究日を設けて、各部で研究活動

各部の主な研究活動

| 国語 | 授業研究会、作文集の発行 | 英語 | 授業研究会、教科書研究会 |
| 社会 | 教科指導、資料配布 | 道徳 | 授業研究会、計画検討会 |
| 数学 | 授業研究会、研修会 | 特別 | 生徒会交流会、研究協議会 |
| 理科 | 自然観察、講演会、実験研究 | 数学 | 青葉資料作成、研修会 |
| 音楽 | 講習会、研究会、講習会 | 音楽 | 講習会、研究会、情報交換会 |
| 美術 | 講習会、美術展、研究会 | 美術 | 講習会、情報交換会 |
| 保体 | 授業研究会、体育研修 | 特別 | 授業研究会、実践教室、合同作品展 |
| 技術 | コンピュータ研修 | 技術 | 連絡指導 |
| 家庭 | コンピュータ研修 | 家庭 | 生徒指導 |

上記の活動の外に、夏休み作品展などを実施している。

3 刊行物
「平成3年度 道路推進の手引き」 B5判 16ページを発行し、道路指導の資料として活用
している。
（6）栃尾市中教研研究活動の概要

心豊かに活力あふれる小千谷の子どもの育成をめざして

小千谷市中学校教育研究会会長 小林正利
同 副会長 桑原郁夫

1 研究活動の推進
(1) 研究部の構成
当市のの中教研は110名の会員で組織し、それぞれの会員は領域研究会（11部会）に所属して研究している。活動は小学校の教職員と一体となった小千谷市教育研究会を構成し、小学校の教職員と連携しながら研究を進めめる場合もある。各部とも授業を公開し、協議会を行い研究を深めている。

(2) 領域研究部の研究主題

<table>
<thead>
<tr>
<th>部会名</th>
<th>研 究 主 題</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>国語</td>
<td>授業づくりを通して、子どもが意欲的取り組む国語科の指導法の研究</td>
</tr>
<tr>
<td>社会</td>
<td>地域教材を生かした指導法の研究</td>
</tr>
<tr>
<td>数学</td>
<td>論理的思考力育成を図る指導法のあり方</td>
</tr>
<tr>
<td>理科</td>
<td>地域生物教材の教材化</td>
</tr>
<tr>
<td>音楽</td>
<td>意欲をもって生きた音楽表現を生む子どもをめざして</td>
</tr>
<tr>
<td>美術</td>
<td>感動を基盤に表す美の表現</td>
</tr>
<tr>
<td>体育</td>
<td>動感を基盤に表す運動の方法</td>
</tr>
<tr>
<td>英語</td>
<td>新型指導要領の移行に伴う英語学科に新しい教材の研究</td>
</tr>
<tr>
<td>道徳</td>
<td>益の主体的自覚を促し、実践意欲を高める指導法の工夫</td>
</tr>
<tr>
<td>特活</td>
<td>心豊かに活力あふれる学級づくりを進めていく手だてを追求する</td>
</tr>
</tbody>
</table>

(3) 朝日新聞 I 型事業 「社会科教育研究発表会」

・研究主題 「高催しを課題意識を持ち、追究する社会科授業を求めて」

教員の選択提示と単元構成の工夫

・講演 「生徒のやる気をおとす社会科の創造」

講師 東京学院大学教授 佐賀 基代

・会場 小千谷中学校 参加者 121名

2 研究成果の発行

「心豊かに活力あふれる小千谷の子どもの育成をめざして」 B5判 70ページを刊行

-- 36 --

（6）栃尾市中教研研究活動の概要

充実をめざす創意と実践

栃尾市中学校教育研究会会長 小原倫
同 副会長 渡邉洋一

1 研究活動の推進
当市の中教研は、小教研究とに栃尾市教育研究協議会を組織している。研究テーマは「充実をめざす創意と実践」とし、研究活動を進めてきた。小・中教職員が教科・領域別に研究会（教科研究以外の部会を含む）に所属し、その教室の研究を基盤に、時代の変革と、当市教育の期待する「心豊かに創意に満ちた生徒」を育てる方策をとるべき、授業研究や部会協議で実践研究を行うと共に、年3回の研究総会を開催してきた。また、栃尾市中学校では4年度に国語Ⅱ型の指定を受け11月16日に中間発表会を開催し、多数の参加者があった。

2 研究活動の概要
(1) 部会の研究テーマ

<table>
<thead>
<tr>
<th>部会名</th>
<th>研 究 テ マ</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>国語</td>
<td>一人一人の表現力を高める指導法の工夫</td>
</tr>
<tr>
<td>社会</td>
<td>地域教材の教材化をめざして</td>
</tr>
<tr>
<td>数学</td>
<td>意欲を育む指導法の工夫</td>
</tr>
<tr>
<td>理科</td>
<td>地域生物教材の教材化</td>
</tr>
<tr>
<td>音楽</td>
<td>生き生きと表現する音楽の育成</td>
</tr>
<tr>
<td>美術</td>
<td>新型指導要領の移行に伴う美学科に新しい教材の研究</td>
</tr>
<tr>
<td>体育</td>
<td>動感を基盤に表す運動の方法</td>
</tr>
<tr>
<td>英語</td>
<td>新型指導要領の移行に伴う英語学科に新しい教材の研究</td>
</tr>
<tr>
<td>道徳</td>
<td>益の主体的自覚を促し、実践意欲を高める指導法の工夫</td>
</tr>
<tr>
<td>特活</td>
<td>心豊かに活力あふれる学級づくりを進めていく手だてを追求する</td>
</tr>
</tbody>
</table>

(2) 研究の進め方

・重点研究（年度別・領域・団体・学校・教員）は、授業研究会等をもち、研究協議会を行ってきた。

・その他の部会は、総会（4・8・11月）の間に研究協議を行った。

(3) その他の事業

・総会・3回・文集「すももの子ら」（国語）・モールアート展・巡回展（美術）

・教科・団体研究会（社会）・音楽発表会（美術）・教員スキー講習会（体育）

(4) 研究成果の発行

「研究の歩み」として年度末に刊行

-- 37 --
家庭との連携を深め、道徳的実践の活性化を図る指導
——「あせまみれ運動」の主体的実践をめざして——

【7】十日町市・中魚沼郡中教研究活動の概要

十日町市・中魚沼郡中学校教育研究会会長
矢川悦朗
副会長 山下 克利

1 研究活動の推進

当市中学校教育研究会は、市内6校、郡内4校の計10校で構成されている。今年度は、中条中学校の文部省指定道徳教育研究発表会を中心に道徳教育の研究を進め、とに、関係された学校づくりを基本に、家庭や地域と連携して進める道徳教育の在り方及びその問題点について研究を深めた。

2 研究活動の概要

(1) 道徳教育研究発表会の開催

ア 会場・期日・参加者数 中条中学校（校長 中野 剛也） 平成3年11月15日 300名
イ 場所 東京教育大学研究所主任指導主事 生駒 昭二教授
ウ 全体指導 県教育庁義務教育課指導主事 室賀 勝治教授
エ 研究発表 中条中学校教育 田中 進
オ 公開授業 全学年（1学級）で道徳の時間の指導が公開された。

(2) 研究会協議

<table>
<thead>
<tr>
<th>分会</th>
<th>協議題</th>
<th>指導者</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>第1</td>
<td>地域の教員に活かした課題活動の在り方</td>
<td>田中</td>
</tr>
<tr>
<td>第2</td>
<td>基本的な生活習慣の確立～家庭との連携を通じて～</td>
<td>金原 恭夫</td>
</tr>
<tr>
<td>第3</td>
<td>一人一人の道徳的実践の援助の在り方</td>
<td>金原 恭夫</td>
</tr>
<tr>
<td>第4</td>
<td>主体的な道徳的実践の促す生徒活動の在り方</td>
<td>中間</td>
</tr>
<tr>
<td>第5</td>
<td>道徳的実践を協力する道徳の指導の在り方</td>
<td>朝倉</td>
</tr>
</tbody>
</table>

連携推進組織の確立、具体的な実践活動の推進の仕方、道徳的実践と道徳の時間との関連について協議された。生徒の道徳性を育成するには、学校・家庭・地域の三者が一丸となった方針で活動を推進する必要があることが確認された。

3 研究成果の刊行

「家庭との連携を深め、道徳的実践の活性化を図る指導」 B5判 146ページ 370部

【8】北魚沼郡中教研究活動の概要

登校拒否への学校の対策

北魚沼郡中学校教育研究会長 岩渕 清高
副会長 浅賀 敏男

1 研究活動の推進

当郡中学校教育研究会では、毎年度、研究部のうちから重点教科（領域）を指定し、それを郡中学校の研究推進の柱とすることになる。本年度は、社会・音楽・特殊教育・地域教育を重点教科・領域として、研究を進めてきた。郡小学校教育研究会の研究部と連携しながら、年間3〜4回程度の部会、授業研究会等を開いている。

特に、全体として取り組んできたのは、職員の「小出中学校登校拒否対策事業運営委員会」における小出中学校の研究を核にした登校拒否支援の対策である。

2 研究活動の概要

(1) 今までの取組

「登校拒否生徒に対するカウンセリングの在り方」「登校拒否生徒と学校体制」を中心に取り組んできた。小・中・下の連携として、実務者連絡会、カウンセリング講習会、講習会、地域啓発のためにのチラシ作成等に取り組み、また、中学校の実践としては、登校拒否生徒の理解、事例研究、家庭訪問記録簿、親と教師の会等を進めてきた。

(2) 本年度の取組

出るしない学校づくり、早期発見と早期治療、拒否状態への適切対応、他との連携を柱として、学校経営上の課題に、学校としての具体的対策策を、教職員の指導力の向上を取り上げ、研究を進めてきた。

ア 出るしない学校づくり

① 学校経営の視点

・全体が落ち着いた状態の中で、一人一人の子どもが生き生きしている学校。
・子どもを主体にして発想する経営。子どもに「自己存在感」を与える経営。
② 一点余計から現象

③ 子どもを活用させた学級経営

④ 子どもの生活に、触れ合い、おうおう、感動を与える学校リズムの工夫

イ 早期発見と早期治療

① 早期発見システム～早期発見（子どもの場合者の立場）は全職員で
ウ 登校拒否生徒への適切対応

① 登校拒否生徒への対応システム～② より確かな対応のための「登校拒否生徒の理解と対応」冊子の作成③ 「指導記録簿」による指導記録の累積④ 研究の重視

エ 家庭との連携

① 日常生活をとことんことし、② 「適応学年・対談の会」の開催③ 小・中の中連携

13 研修会の開催 1月28日（火曜日）小出中学校

3 研究成果の刊行

「登校拒否への学校の対策策」 B5判 30ページ 100部
南魚沼郡中教研究活動の概要

【9】

研究活動の推進

7校。条数192名の本部中学校教育研究会は、郡小学校教育研究会と密接な連携を取りながら、共同で研究活動を推進している。本年度は、進路指導協議会の「進路指導」について、大村中学校で、文部省指定の「保健体育」について、浮沢中学校で研究発表会が開催された。また、その他各教科、領域での小学校教育研究会と合同で年2〜3回の授業研究会等を実施している。本年度の目標は、近く小学校との協同研究の県小学校学習指導研究会・南魚沼大学の六日町中学校の研究を取りあげた。

2研究活動の概要

(1) 授業研究会の開催

ア 9月12日(水) 小・中同席授業研究会(指導者・実施発表者・協力校の参加)

イ 国語・社会・保健体育・特別活動・コンピュータ(理科)の各教科及び領域の協力校・実践発表者との連携を図りながら5回開催。

ウ 研究の内容

(1) 生徒が主体的に活動する場の設け

(2) 集団による活動の重視

(3) 教育機器の活用

(2) 研究発表会

ア 期日 10月9日(水) 会場 六日町中学校 参加者 約450名(小300 中150)

イ 指導者 大阪大学教授 水越 菁行

日本学校教育学習指導研究会 小西 邦明

中越教育研究事務所指導事務局 高島 吉之

県内教育委員会事務局 県内小中学校長

ウ 研究発表

(1) 研究発表「学びの重要性の学習発表」について(教育機器の活用をとおして)

(2) 研究者 六日町中学校教諭 渡辺 和昭

(3) 公開授業 国語・社会・保健体育・特別活動・コンピュータ(理科)の教科・領域

(4) 研究内容 共同学習を図るために活用

(5) OHPの活用について ビデオの活用について

コンピュータの活用について

(6) 研究協議 上記各教科・領域の分科会で教育機器の活用について協議

3研究成果の計画

(1) 標題「気力・体力を充実して活動する生徒の育成」

(2) 体裁 B5判 123ページ

内容の概要

研究発表

研究実践例

評価と課題

今後の研究課題

南魚沼郡中学校教育研究会委員会長 清水 永 郎

南魚沼郡中学校教育研究協議会委員会長 田村 知 信
4 下越地区研究活動の概要

下越地区都市中研の研究活動とその成果

下越地区会長 渡辺 昇一
（新潟市立中学校長）

下越地区中研（11地区）は、それぞれの都市における研究活動に基づいて、本年度も研究の方法や会合等に地域性を生かしながら地道に全国各地で活動を展開された。

1 下越地区中研の活動

(1) 第1回都市会合 4月27日（金） ニュー越路
* 下越地区中研の組織づくり
* 平成3年度の研究計画について

(2) 第2回都市会合 11月27日（火） 田中ホテル
* 平成6年度の編纂助成事業の研究指定校の決定
* 平成3年度各都市の研究活動の概要説明

2 編集補助事業による研究会

(1) 数学（Ⅲ型） 10月11日（日） 北越、加治川中
* 主題「基礎学力の向上をめざした指導の工夫」
* 教師の活用をとおして...

(2) 理科（Ⅰ型） 11月14日（金） 新潟、関宿中
* 主題「一人一人の学習を成熟させるための指導のあり方」

(3) 音楽（Ⅲ型） 11月7日（金） 水戸大泉中
* 主題「豊かな表現力を培う教場指導―心から歌声を楽しむ生徒の育成」

(4) 美術（Ⅲ型） 11月18日（金） 新潟、里塚野中
* 主題「創造の魂」と題し、物質な質感と社会性を生かし、細密な表現に結びつける芸術活動や...

(5) 英語（Ⅲ型） 11月29日（金） 長田・吉田中
* 主題「聞くことと話しすこと」のコミュニケーション能力を高める指導法の工夫

(6) 進路指導（Ⅰ型） 11月8日（金） 村上・上村第1中
* 主題「目的意識を育む進路指導のあり方」
* 自己理解を深めるための指導...

上記の研究会は、県中研のテーマを踏まえ、地域や学校の特色を生かしながら、研究内容の形成、実践の実験が発表され感謝を含む。

3 下越地区中研に見られる成果と今後の課題

昨年度と同様、教育課程改革の方向に着目しながら、地域や学校が当面している問題を取り上げながら着実に成果をあげている。特に音楽では小学校校でありながら立派な効果をあげ、よくまとめたと思う。

また、地区によっては広域化がみられ、さらに新たな課題が発展したようであるが、全体として充実した活動がなされた。来年度は小学校指導の実施の準備等、更に留意し検討していかねばならない。
新済市中教研活動の概要

「自ら学ぶ力を育て、共に高める学校生活を実現させる」

新済市中学校教育研究協議会会長 瀧 陵

1 研究活動の推進

(1) 運営の基本方針

会員が自発的・意欲的に研究と実践にとりかかることで、共通の研究を推進することによって、新済市中学校教育の向上をはかる。

(2) 研究実践活動の方針

・教育課程の研究ならびに学習指導法の改善について、実践的研究を現場に導入し、学校教育の問題点を明らかにする。
・各部会ごとに研究担当を定め、研究推進にあたることは従前のとおりでしも、市中教研として設定した研究テーマを参考に、各部の研究に連携が生まれるよう工夫する。
・共同研究での実態を高める。

2 研究活動の概要

- 第1回部会：4月18日(月)、第1回部会：4月25日(月)
- 第2回部会：6月30日(月)、第3回部会：9月19日(月)
- 第4回部会：11月14日(月)（特別活動、道徳指導、生活指導、学校生活、生徒会活動、クラブ活動）
- 第5回部会：1月16日(月)、第6回部会：2月13日(月)

3 研究成果の刊行

研究記念「実践報告集」B5判 30頁 全部会員に配布

新済市中教研活動の概要

「新学習指導要領の趣旨及び内容の実践化」

新済市中学校教育研究協議会会長 瀧 陵

1 研究活動の推進

新済市中教研では、県並びに市の学校教育実践上の努力点に示されている課題を踏まえて構える

研究方向を設定し、7校の全教職員がそれぞれ教務課・教務課の両部会に所属し、研究

推進を推進してきた。その形態は、研究会、調査、巡礼、実践研究、事例研究、実践等多様な

ものを取り入れている。

2 研究活動の概要

(1) 総会 4月19日(金)、教員会・職員会 6月27日(水)、当会・職員会 11月5日(金)、その他の研究

部会1～10回（第2、第4水曜日）

(2) 理事会 4月10日(水)、3月2日(日)、理事・部会長 11月5日(金)、3月2日(日)

3 各研究活動内容

部会名 活動内容

国語 古典芸術研究会、講演会、毛筆指導講習会
社会 地域巡検（北陸・安田町の赤坂山公園の見聞、概要の聴講）
数学 課題学習についての研究会、中高連携講座
理科 実験指導、実験指導、実験指導の研修、実験指導の実践
音楽 卒業式、実践研究、研究発表会、実践研究会、研究発表会、実践研究会
体育 寝具、実践研究、実践研究、実践研究、実践研究
英語 共働き、実践研究、実践研究、実践研究、実践研究
道徳 公開授業、新指導要領の内容解釈、「道徳」実践指導計画の作成
生徒指導 生徒指導上の問題点とその対応について「実践発表及び協議」
研究指導 対話状況の実践指導と実践指導の実践
学校経営 学校経営の方策「事例報告と協議」
学校図書館 学校図書館研究会新発田大学参加、情報教連会
学校保健 学校保健学研究会・保健研究会、保健研究会
飲食指導 学校飲食指導に関する研修会、飲食指導に関する研修
視覚障害 生徒指導に関する研修会、生徒指導に関する研修
学校給食 学校給食に関する研修会、学校給食に関する研修

3 研究成果の刊行

「新済市中教研究紀要」 B5判 50ページ（予定）
研究活動の推進

新発田市中等教育研究会では、各種教科・問題ごとに年度初めの計画に基づいて、自主的な実践研究を進めております。特に各学校の実態を踏まえた指導の具体的課題の解決を重視し、学校が交流を深め、研究や実践が計画的・連続的に行われるよう配慮しています。さらに新たな指導の徹底実施を促進するために、新しい指導計画の策定のための研修を深める努力をしている。

研究活動の概要

1. 総会
   4月26日（新発田中学校）

2. 市研講演会
   10月2日（文化会館）

3. 科学研究発表会
   9月26日（地区理科教育センター）

4. 小中合同音楽発表会
   11月10日（文化会館）

5. 本年度各部の主な研究活動

<table>
<thead>
<tr>
<th>研究部</th>
<th>研究活動</th>
<th>研究活動内容</th>
</tr>
</thead>
</table>
| 国語 | 総合的な国語の指導活動 | 新発田市民の国語力向上を目的としての国語指導活動
| 社会 | 総合的な社会科の教育活動 | 新発田市民の社会性向上を目的としての社会科教育活動
| 数学 | 新指導教師の研修活動 | 新発田市民の数学力向上を目的としての数学指導教師研修活動
| 理科 | 新指導教師の研修活動 | 新発田市民の理科力向上を目的としての理科指導教師研修活動
| 音楽 | 新指導教師の研修活動 | 新発田市民の音楽力向上を目的としての音楽指導教師研修活動
| 美術 | 新指導教師の研修活動 | 新発田市民の美術力向上を目的としての美術指導教師研修活動
| 保健体育 | 新指導教師の研修活動 | 新発田市民の体育力向上を目的としての体育指導教師研修活動
| 技術 | 新指導教師の研修活動 | 新発田市民の技術力向上を目的としての技術指導教師研修活動
| 家庭 | 新指導教師の研修活動 | 新発田市民の家庭力向上を目的としての家庭指導教師研修活動
| 英語 | 新指導教師の研修活動 | 新発田市民の英語力向上を目的としての英語指導教師研修活動
| 道徳 | 新指導教師の研修活動 | 新発田市民の道徳力向上を目的としての道徳指導教師研修活動
| 特別活動 | 生徒会活動の推進 | 新発田市民の生徒会活動推進活動
| 生徒指導 | 生徒会活動の推進 | 新発田市民の生徒会活動推進活動
| 道路指導 | 道路希望調査 | 新発田市民の道路希望調査
| 学校運営 | 校長・教頭合同研究会 | 新発田市民の学校運営推進活動
| 特殊教育 | 特殊教育の推進 | 新発田市民の特殊教育推進活動
| 養護 | 特殊教育の推進 | 新発田市民の養護教育推進活動

研究活動の推進

「一人一人の個性を生かし、豊かな創造力を伸ばす指導の工夫」を主眼として取り組んできた過去の研究の成果をとらえ、自主的な学習態度の育成を目指すための研究である。具体的には、各校間でごとの目標を設定し、その後の研究計画の設定により、学びの中にわたり指導研究を推進している。本年度は第2年次として、活動の概要に記した研究の実施を開始した。その成果は、研究記録にまとめ、年度末に発表する。

研究活動の概要

1. 総会
   第1回研究会（研究計画立案）
   4月25日（新発田中学校）

2. 第2回研究会（授業案、途中検討）
   11月1日（新発田中学校）

3. 第3回研究会（共同研究）
   11月20日（新発田中学校）

研究成果の発表

「新発田市中等教育研究会」B5判 50ページ 250部
5. 白根市中教研究活動の概要

資質・指導力の向上を目指して

白根市中学校教育研究会会長 西 増 伸

1. 研究活動の推進

若年層の教員が多い白根市では、教員の資質・指導力の向上が重要課題である。各部会では指導力の向上を目指して主題を設定し、授業研究等を行ってきた。

2. 研究活動の概要

(1) 総会 4月30日<br>
(2) 部会

A. 部会（各教科）

B. 部会（頭書・特活）

3. その他の活動

10月17日 第18回市中学校学習指導研究大会を上井中学校で開催。
11月7日 県中教研会実践保育の音楽教育研究会を大鷲中学校で開催。
10月8日 科学研究発表会に理科専門の協力、11月12日中・科向上音楽祭に音楽授が主催。

3. 研究成果の冊集

(1) 研究紀要 24号 B5判 86ページ 全教員に配布<br>
(2) 道路指導資料集 第3号 B5判 64ページ 各学校、学級配布、全生徒兼患購入<br>
(3) 作文集「白いはるか」第44号 B5判 52ページ 各学校に配布、希望者購入

(6) 五泉市中教研究活動の概要

生徒一人一人の実態に即して、個性や能力を伸ばす効果的な指導法の工夫

五泉市中学校教育研究会会長 立 松 秀 郎

1. 研究活動の推進

五泉市中教研は、学校数4校、全教員9名で組織されている。部会は教科別、領域別にあり、14部会がある。研究活動は年度別のものを継続した。本年度も、教科の一斉研究会の他に、部会連携の中小学校研究会をもち、研究の充実を図る。

2. 研究活動の概要

(1) 領域・特別活動の地域研究会における研究（一斉研究会・全教員参加）

(2) 各教科の地域研究会における研究（一斉研究会・全教員参加）

研究テーマ

- 特活・特別活動の地域研究会における研究（一斉研究会・全教員参加）
- 領域・特別活動の地域研究会における研究（一斉研究会・全教員参加）

部会一覧

<table>
<thead>
<tr>
<th>研究タイトル</th>
<th>指導者</th>
<th>会場校</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>白根地区教育指導部</td>
<td>白根地区教育指導部</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>白根地区教育指導部</td>
<td>白根地区教育指導部</td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

*技術、家庭、部会の関係で本年度休憩とする。

3. 研究成果の冊集

(1) 研究紀要 24号 B5判 86ページ 全教員に配布
(2) 道路指導資料集 第3号 B5判 64ページ 各学校、学級配布、全生徒兼患購入
(3) 作文集「白いはるか」第44号 B5判 52ページ 各学校に配布、希望者購入
豊かな心の育成とよい授業の創造

1 研究活動の基本方針
①「豊かな心の育成とよい授業の創造」を統一主题として各の主体的な実践活動を推進する。
② 授業を基盤と教科書に教科書を核とする。の生活に対する理解を高めるために、指導力や総合教育する。
③ 教材・教科書の一部研究を設定し、研究を集中する。
④ 移行方法の実践を交換し、完全実践に向けての研究を推進する。

1.1 Ⅲ型指定（進路指導研究）の研究推進と研究会の実施。（11月8日）

２ 研究活動の概要

<table>
<thead>
<tr>
<th>部会</th>
<th>会場</th>
<th>考え</th>
<th>研究主题</th>
<th>内容</th>
<th>指導者名</th>
<th>所属名</th>
<th>授業者名</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>国語</td>
<td>中央</td>
<td>教育力育成のための指導法の工夫</td>
<td>佐藤 亮</td>
<td>西川</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>社会</td>
<td>山田中</td>
<td>いろいろにかかわるための授業の工夫</td>
<td>小松 義人</td>
<td>山田中</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>数学</td>
<td>関東</td>
<td>本間の数学概要</td>
<td>開田</td>
<td>関東</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>理科</td>
<td>神奈川</td>
<td>生徒の自主性を生かした授業</td>
<td>佐藤 亮</td>
<td>神奈川</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>音楽</td>
<td>東京</td>
<td>合唱指導の在方</td>
<td>依山 義男</td>
<td>東京</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>美術</td>
<td>豊かな表現力の育成</td>
<td>渡辺 星</td>
<td>豊川</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>保育</td>
<td>朝日</td>
<td>基礎教育の持続</td>
<td>渡辺 賢</td>
<td>保育</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>家</td>
<td>平成</td>
<td>男女共同の学習指導の在方</td>
<td>小林 義</td>
<td>家</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>英語</td>
<td>昭和</td>
<td>AETでのチーム・サークルの中で学び</td>
<td>木村 宏</td>
<td>英語</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>道徳</td>
<td>宮内</td>
<td>教師の働きかけと教材の活用</td>
<td>田中 義</td>
<td>道徳</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>生徒指導</td>
<td>東京</td>
<td>検校の在方</td>
<td>田中 義</td>
<td>生徒指導</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>特別授業</td>
<td>東京</td>
<td>学生指導要領の改訂に関係する問題</td>
<td>佐藤 亮</td>
<td>特別授業</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>授業</td>
<td>東京</td>
<td>指導者の活動に関する問題</td>
<td>佐藤 亮</td>
<td>授業</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>演出</td>
<td>新潟</td>
<td>新潟県の進路指導の在方</td>
<td>若林 亮</td>
<td>演出</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>講演</td>
<td>新潟大学教育学部教授</td>
<td>若林 亮</td>
<td>講演</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>図書館</td>
<td>東京</td>
<td>韻書館の在方</td>
<td>若林 亮</td>
<td>図書館</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>学校経営</td>
<td>東京</td>
<td>教育課程編成の在方</td>
<td>参考</td>
<td>学校経営</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>特殊教育</td>
<td>宮内</td>
<td>生徒の実態に応じた作業学習の在方</td>
<td>佐藤 亮</td>
<td>特殊教育</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>義教</td>
<td>宮内</td>
<td>普及教育生徒の在方</td>
<td>佐藤 亮</td>
<td>義教</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>事務</td>
<td>宮内</td>
<td>与会・参加者の事務的処理について</td>
<td>佐藤 亮</td>
<td>事務</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

３ 研究活動の推進

1.2 西尾原郡中教育研究活動の概要

自ら学び力を育てる指導法の工夫（第2年次）

1 研究活動の推進

上記の共通研究活動をふまえ、新指導者への推進と授業研究を推進する研究活動を推進してきた。一斉研究会は、今年度より午後の開始としたが、どの研究会でも時間が不足するほど積極的な活動がなされた。また、各研究会委員会では運営面で一層の工夫が図られた。

2 研究活動の推進

(1) 論文会 4月12日 （2）総会 4月19日 （3）前期研究会 5月1日 （4）後期研究会 6月6日

(1) 講演会 5月12日 （2）中間報告会 9月5日 （3）総会 11月15日 （4）次期研究会 12月6日

(1) 講演会 11月15日 （2）多くの研究会が発表を依頼して行う研究会が発表を依頼して行う研究会

3 研究成果の発表

(1) 研究報告…（「西尾原郡中教育研究第27集」、B5判、45ページ、450部の刊行）
(2) 各研究会及び研究会の提出書に発表し、国内の研究部に配布。
【9】東海原郡中教研究活動の概要

「生徒が主体的に活動する授業」の指導法を求めて

東海原郡中学校教育研究協議会

同　副会長　塚本 保之

同　副会長　植村 敏

1 研究活動の推進

小規模教室の採用、失敗実験が少ないという地域の実態から、授業研究を継続し指導法の向上に努めている。郡中学校地域研究会を11月9日（火）、郡内各中学校を会場として開催し、下級教育研究会・上級教育研究会の指導の下に公開授業について研究協議会を実施した。

2 研究活動の概要

(1) 域界研究会

<table>
<thead>
<tr>
<th>教科</th>
<th>研　究　主　題</th>
<th>指　導　者</th>
<th>授業者</th>
<th>単元・題材</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>英語</td>
<td>新指導要領に基づく授業内容検討</td>
<td>島倉指導主事</td>
<td>佐藤 千春 (津川中)</td>
<td>創作打出し</td>
</tr>
<tr>
<td>理科</td>
<td>生徒が主体的に学ぶ授業活動</td>
<td>中村指導主事</td>
<td>関 薫 (鶴舞中)</td>
<td>電圧</td>
</tr>
<tr>
<td>数学</td>
<td>生徒が主体的に学ぶ授業活動</td>
<td>六井指導主事</td>
<td>矢崎 美香子 (上川中)</td>
<td>一元二次方程式</td>
</tr>
<tr>
<td>社会</td>
<td>生徒が主体的に学ぶ授業活動</td>
<td>小川指導主任</td>
<td>金子 宽之 (野幕中)</td>
<td>ラテンアメリカ</td>
</tr>
<tr>
<td>英語</td>
<td>主体的な授業活動を引き出す指導法</td>
<td>深川指導主事</td>
<td>佐藤 祐子 (川中)</td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

(2) 小学校・地域の研究主題等

<table>
<thead>
<tr>
<th>部会</th>
<th>研　究　主　題</th>
<th>主な研究活動・事業</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>国語</td>
<td>表現力をどのように高めるか</td>
<td>授業研究会</td>
</tr>
<tr>
<td>音楽</td>
<td>生徒の教える学びを解釈しよう</td>
<td>授業研究、音楽発表会</td>
</tr>
<tr>
<td>保育</td>
<td>活動する之中を学ぶ授業の工夫</td>
<td>授業研究</td>
</tr>
<tr>
<td>技術</td>
<td>男女の特徴を生かしながら主体的に活動させる指導法</td>
<td>授業研究</td>
</tr>
<tr>
<td>道徳</td>
<td>学校教育の現状と将来の指導方法</td>
<td>学校教育の将来の指導方法の検討</td>
</tr>
<tr>
<td>体育</td>
<td>生徒の体育課の指導方法をどうするか</td>
<td>学校体育の将来の指導方法の検討</td>
</tr>
<tr>
<td>学校経営</td>
<td>生徒が主体的に活動する授業を実践するために学校経営はどうするか</td>
<td>学校経営の将来の指導方法の検討</td>
</tr>
</tbody>
</table>

進路指導

主体的な進路選択を進めるための指導及び助言はどうするか

指導内容検討、情報交換

3 研究の成果

「基礎学力の向上をめざした指導の工夫」の刊行（数学）

「生徒が主体的に学ぶ授業活動」の刊行（特別活動）
5 佐渡地区研究活動の概要

佐渡地区都市中教研の研究活動と今後の課題

佐渡地区会長 渡辺喜信
（福島市立東中学校教）

1 佐渡地区中教研の活動

(1) 都市会議会 4月6日
   * 平成5年度組織編
   * 佐渡地区16部会副部長の選出
(2) 部会理事会 9月27日
   * 研究会、講習会の推進について
   * 中高連絡会議の実施計画について

2 県費補助事による研究会

* 生徒指導研究会（I型事業中間発表会）
(1) 期 日 11月22日（金）
(2) 会場 福島市立大学
(3) 主題 「主体性、積極性を育てる生徒指導」
(4) 公開 授業 保健体育（1男「マップ運動」）
   活動 専門研究会（給食委員会「給食給付の計画等」）
(5) 全体発表 「当校の研究について」相川中教諭 中村 慎
(6) 分科会 第1分科会 学習指導、道德
   発表 相川中教諭 三浦宜雄、高田英子 司会 金谷中教諭 大島勇一
   指導 佐渡出版所指導主事 佐藤芳彦
   第2分科会 生徒、学級活動（進路指導）
   発表 相川中教諭 中村 慎、坂下正己 司会 二見中教諭 金子孝一郎
   指導 下越教育事務指導主事 中村三義先生

平成4年度発表をひきえて中間発表会として開催。VT-R活用で自己評価をとり入れた体育の授業や、的確な話題の中からユニークな活動をまとめた専門研究会の公開など、全校の意欲的な研究実践が見られた。進路指導の本質をふまえた学級活動の展開など、来年度に向けより充実した研究推進が期待される。

3 今後の課題

都市間の研究活動の連携の在り方については、徐々に改善されて効果的な運営がみられた。今後とも、教科・領域の各部会において交流を図り、連携を密にして広域的な研究が推進され、地域の実情に即した実践が展開されるよう努めたい。
第１ 頃津市中教研究活動の概要

主題 心豊かで自ら学ぶ生徒の育成

頃津市中央教育研究会会長 渡辺 喜 信
同 副会長 正治 健 二

1 研究活動推進の重点

(1) 各学部の学年别指導計画を具体的に実施する。特に授業研究を中心に指導力の向上に関する研修活動を通じて、新教育課程の実施に向けて学校課題を検討するよう努める。
(2) 小、中、高規模の連携をさらに密接に行うとともに、頃津中教研究活動との連携を図り、研究対話の一層を促す。

2 研究活動の概要

(1) 自町毎の視角と学校の特性を生かし、自ら学びたくなるような生徒の育成

研究活動

水梅中「地域の意識を育む取り組み」<体育>ほか

栄南中「地元探訪」

安田中「地域の意識を育む取り組み」

飯沼中「地域の意識を育む取り組み」

研究活動

水梅中「地域の意識を育む取り組み」

安田中「地域の意識を育む取り組み」

第２ 佐渡郡中教研究活動の概要

主題 「意欲的に学習活動を取り組む生徒の育成」

佐渡郡中学校教育研究会会長 加藤 洋
同 副会長 岩田 伸
同 副会長 佐久間 守治

1 研究活動の推進

(1) 基本方針

a 現場の教育実践を活かした研究を深めることによって、本郡中学校教育の発展を図る。

b 地方中学校教育研究会の活動に準じ、地域（佐渡郡・頃津市）一貫した研究方向を示す。

2 研究活動の概要

(1) 評価会 4月9日 佐渡市教務・研究計画・研究委員会及び決定（金沢中）

(2) 佐渡郡 5月2日 全員研究会（講演会、各研究所会）（金沢中）

(3) 佐渡郡教育震災対策 佐渡郡教務課「学習研究会」（佐渡・相川中）11月22日実施

研究活動 「主体性、積極性を育む生徒指導」

(4) 各研究部の活動

<table>
<thead>
<tr>
<th>研究部</th>
<th>月</th>
<th>会場</th>
<th>研究内容</th>
<th>指導者</th>
<th>番 号</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>学習部</td>
<td>11.28</td>
<td>新河中</td>
<td>学習研究「学習の楽しさ」</td>
<td>塩村中</td>
<td>22人</td>
</tr>
<tr>
<td>社会部</td>
<td>10.24</td>
<td>高野中</td>
<td>学習研究「探究力の育成」</td>
<td>吉岡中</td>
<td>24人</td>
</tr>
<tr>
<td>数学部</td>
<td>11.15</td>
<td>高千中</td>
<td>学習研究「数学の基礎」</td>
<td>中里中</td>
<td>15人</td>
</tr>
<tr>
<td>科学部</td>
<td>11.21</td>
<td>佐和中</td>
<td>学習研究「自然の発見」</td>
<td>旭川</td>
<td>15人</td>
</tr>
<tr>
<td>獲物部</td>
<td>9.26</td>
<td>佐和中</td>
<td>学習研究「動物の観察」</td>
<td>津戸</td>
<td>16人</td>
</tr>
<tr>
<td>美術部</td>
<td>10.9</td>
<td>佐和中</td>
<td>学習研究「アート」</td>
<td>佐和</td>
<td>12人</td>
</tr>
<tr>
<td>徳育部</td>
<td>11.14</td>
<td>佐和中</td>
<td>学習研究「人格育成」</td>
<td>佐和</td>
<td>20人</td>
</tr>
<tr>
<td>家庭部</td>
<td>7.11</td>
<td>佐和中</td>
<td>学習研究「生活の基礎」</td>
<td>佐和</td>
<td>10人</td>
</tr>
<tr>
<td>英語部</td>
<td>11.28</td>
<td>佐和中</td>
<td>実践研究「英語」</td>
<td>佐和</td>
<td>14人</td>
</tr>
<tr>
<td>理工部</td>
<td>2.6</td>
<td>佐和中</td>
<td>実践研究「科学」</td>
<td>佐和</td>
<td>30人</td>
</tr>
<tr>
<td>音楽部</td>
<td>11.26</td>
<td>佐和中</td>
<td>実践研究「音楽」</td>
<td>佐和</td>
<td>32人</td>
</tr>
<tr>
<td>特別活動</td>
<td>11.20</td>
<td>佐和中</td>
<td>実践研究「特別活動」</td>
<td>佐和</td>
<td>32人</td>
</tr>
</tbody>
</table>

3 研究成果の発表

(1) 「研究研究」 (第13号) 5月 37ページ 200部

(2) 内容の概要 各教科・領域の研究や活動のまとめ

- 56 -

- 57 -
県中研第3次事業（学習指導改善調査）
研究 その2）の概要 —3次年計画の第2年次—

1 事業名「学習指導改善調査研究事業」(その2)

2 調査研究のねらい
平成元年度までの学習指導改善調査研究の成果と課題をもとに授業の改善を、さらに、
そのため、学習内容の定着に関する実態の調査研究を拡充して実施し、本県中学校における学習
指導上の課題である「学力の向上」を因める授業の改善に資する。

3 調査研究の内容
(1) 授業における生徒の学習状況に関するアンケート調査
生徒の授業における学習の状況や意識、態度等の実態について調査し、指導方法改善の
方策を検討する。
(2) 中学校の学習内容の定着に関する調査
国語、数学、英語について、全年度を対象
に、当該学年度までの学習内容の定着の程度について調査し、指導方法改善の方策を検討する。

4 今年度調査の概要
(1) 組織の確認、研究方針の策定、調査依頼状の
決定（学校規模、地区別を配慮）
(2) 調査調査時等の作成（6～1月）
(3) 授業における生徒の学習状況に関するアンケート調査（11月11日～20日）

5 第2次調査報告書の刊行
調査時間選定のため、調査結果をまとめて
平成4年7月末刊行の予定。

6 事業実施に要する経費
385万円（国費補助金385万円）。創設、報
告書刊行費は当会で別に負担。

7 平成3年度研究組織
(1) 本部研究会 10名
（調査研究計画の策定・推進）

| 特別委員 | 高中 基弘 | 新大教育学部助教授 |
| 委員長 | 松風 信 | 県中教研究副会長 |
| 委員 | 佐藤 龍 | 同 会長 |
| 同 | 吉田 晃 | 同 副会長 |
| 同 | 安部 晃 | 同 事務局長 |
| 同 | 坂本 勝 | 同 理科座長 |
| 同 | 佐藤 仁 | 同 理科座長 |
| 同 | 海津 和信 | 同 理科座長 |
| 同 | 高宮 英彦 | 同 理科座長 |
| 同 | 荒川 寿 | 県中教研究専任幹事 |

(2) 調査研究会
（調査問題等作成、調査の実施、統計分析
・考察、指導資料の執筆・彙纂）

| 委員長 | 松田 昭 | 県中教研究会議長 |
| 委員 | 野中 正彦 | 新大政治学部助教授 |
| 同 | 三宅 峰 | 同 理科座長 |
| 同 | 本村 信 | 同 理科座長 |
| 同 | 佐藤 信 | 同 理科座長 |
| 同 | 三宅 肇 | 同 理科座長 |

(3) 全体会 33名
（調査研究全体の方針等の確認）
本部委員及び各研究会委員会で構成。

8 国語調査委員会 7名

| 委員長 | 佐藤 仁 | 上越・新田中学校教頭 |
| 委員 | 内山 倫一 | 新大・新田中学校教頭 |
| 同 | 木村 健 | 新大・新田中学校教頭 |
| 同 | 吉田 信 | 新大・新田中学校教頭 |
| 同 | 清水 正彦 | 新大・新田中学校教頭 |
| 同 | 神田 一弘 | 新大・新田中学校教頭 |
Ⅲ 平成4年度 各研究部の重点方針

国語
- 主題を即席にし、構成を整えて文章を出し易くできる
- 優雅な読む文法を学び、文章を正しく読んでみる
- 言語文法を学び、動画を書き、言語表現を学ぶ

社会
- 意欲的な活動を促進し、社会科指導
- 地域実用の実践を通じて
- 子供たちの思考を深める指導過程のあり方

数
- 一人ひとりを学び、教える形で学習内容の理解を
- 具体的な学習活動の工夫
- 生徒の多様な発想の重要性

理科
- 生徒の興味や意欲を高める教材を開発し、
- 観察・実験の実を行なう
- 生徒の生徒指導の充実と強化

音楽
- 音楽の楽しみに主導、創造的な自己表現
- 生徒が対面の育成

美術
- 一人一人が心を感じることを、主体的に表現
- 地域や学校の特性を生かした指導計画の作成

保健体育
- 生徒の体育やスポーツを目指し、一人一人を
- 伸ばす学習指導の研究

技術・家庭
- 自分の力で生徒が指導の充実化を
- 講義の内容を規則に従って
- 試行錯誤の指導計画の計画

英語
- 一人一人が意欲的にコミュニケーション活
- 動をしようとする能力・発達の育成を
- 基本的な言語活動の工夫
- 多様な活動を

道
- 1．中学校の指導を講じ、全生徒が
- 生徒指導の教科会で
- 9月17日18日に講義を

○ 各研究部会の主題をより具体的に
- 講義の内容を
- 生徒指導の育成

X 中教県費補助事業（研究会・講習会）の運営

1．研究部会の構成と研究部会・講習会の開催
① 研究部会は次の16部会とする。（61年度確認）
国語部会・社会部会・数学部会・理科部会・音楽部会・美術部会・保健体育部会・技術部会
家庭部会・英語部会・道徳部会・特別活動部会・生徒指導部会・進路指導部会・学校経営部会
- 営業部会

② 各研究部会は県中教研からの地域及び教科領域等の区別を受けて、年1回研究会（講習会）
を開催する。但し、講義部会は「県中教研顧問会」を1回直行する。また61年度より
- 研究部会の研究会（講習会）を開催する。（61年度確認）

③ 事業の推進期間は2年または3年とし、最終年度において研究成果の発表（研究発表会、
- 学生指導研究会）を行うこととする。（61年度確認）

④ ③の確認があるが、平成元年度（1989年）以降、その年に指定の最終年度にあたってい
ないため研究成果の発表のない研究部会が生じる場合がある。（63年度確認）

2．研究部会・講習会の当における経費
① 常費補助額をもって充填できる。（「県中教研顧問」と呼称する）
② 研究部会の要金を充填しても、なお経費に不足が生じる場合は、自治体（県、市町村から
- の助成金等）で補填することとする。
③ 補助金の交付は、事業の推進の最終年度に行うこととする。

3．研究部会・講習会の種類（型）と補助額
① 研究部会・講習会の種類は、県中教研の組織母地である地域の研究推進や学校単独の
- 創造的に実施研究の充実を図るため、Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ型の3種別に改正する。（60年度確認）

事業の種類
- 事業内容
- 推進組織（原則）
- 実施組織（原則）
- 発表者

Ⅰ型事業
- 研究会事務
- 部会単位
- 地区内
- 地区内か
- 郡内

Ⅱ型事業
- 講習会事務
- 講習会事務
- 郡内
- 郡内
- 郡内

Ⅲ型事業
- 研究会事務
- 講習会事務
- 学校単位
- 自由
- 校内

○ 平成3年度までの事業数及びⅠ事業あたりの補助金配分
昭和61年度に平成3年度までの事業数は次のように指定されている。
4 研究指定の基準（61年度確認）
1) 県費補助金の関係もあり、15部署の事業を補助するものとする。（技術・家庭を1部署とする）
2) 英語弁論大会は、英語部の特別事業として継続する。
3) 資塚部会は、当分の間II型事業とする。ただし、地区指定をお願い。
4) 金団に関連する事業数及び種別等、地区会長会、理事会において調整し評議員会で決定する。

5) 各型事業の地域の指定及び教科領域等の指定は、次を原則とする。
① I型は、地区の指定・教科領域等の指定を継続する。
② II型は、地区の指定を行う。教科領域等の指定をしない。ただし、実施する教科領域等は、地区内I型指定以外の教科領域等が希望される。
③ II型は、地区の指定及び教科領域等の指定をしない。ただし、実施する教科領域等は、地区内I型指定以外の教科領域等が希望される。
④ II型は、地区毎に毎年I型以上の実施が望ましい。地区を除く。
⑤ 事業総数は、予算上制限があることに。その場合は、II型事業を補助金及び事務費調整を受ける事業とする。
⑥ I型の主幹学校及びII型の主幹学校と教科領域等は、指定された期日までに各地区の都市中等教育会長等で審査決定し、指定研究計画をもととして、継続研究及び県費補助金申請の関係から、原則としてII型II型は2か年前に決定する。

6) 各事業における指定の有無（上記の指定原則を表に出したもの）

7 その他
「県教育研究グループ研究事業補助金交付」申請について
① 県教育研の研究研究を受けた学校（団体）は、最終年度の前年度において「同 研究グループ」として申請を受けることができる。
② 各都市及び学校等の研究グループが、「同教育研究グループ」として申請を希望するときは、所属都市会長及び地区会長の推薦を得て、県教育研究局に申し出る。（5月上旬 既報）
③ 研究課題の指定、予算等を所定の用紙に記入し、7月までに申請書として事務局に提出する。
④ 申請後の書類提出・交付決定・報告書の提出等は、県義務教育課の指示に従う。
第40回読売教育賞「最優秀賞」受賞概要

1 応募部門 「教育委員会・教育研究所等の調査研究活動」

2 応募内容

「本県中学校教育の課題解決を伴うための実態調査に基づく下記の調査研究」

(1) 「本県中学校教育の課題解決のための実態調査に基づく下記の調査研究」（昭和55〜56年度）

検討委員会を開催し、生徒の側からみた本県中学校教育の課題を明かにし、その解決のため
の調査研究の在り方を検討。これに基づき、生徒及び教師を対象に「学習の阻害要因を調べるアン
ケート調査」を実施し今後の研究課題を設定。

(2) 第1次調査研究 「学習の阻害要因を調べる調査研究」（昭和57〜58年度）

生徒の側に立った授業の改善・充実に着目するため、上記の調査で特に問題点が浮かび上がった
数理・英語について、生徒及びその教科担当教師を対象に学習阻害の意識や実態の調査と授業研
究を実施し指導資料を作成。

(3) 第2次調査研究 「学習阻害等調査研究」（昭和60〜62年度）

学校における人間形成や学習の基盤となる学級生活の充実を目指すため、生徒の学校生活や道
徳・道徳について生徒・教師・保護者の意識や実態を調査し指導資料を作成。

(4) 第3次調査研究 「学習指導改善調査研究」（昭和63〜65年度）

学習指導の状況と問題点を明らかにし、その改善・充実を目指すため、国語・数学・英語の学
習内容の定点による実態調査及び教師の授業についての意識や取組みに関するアンケート調査
を実施した指導資料を作成。

3 表彰式 平成3年7月5日（於 読売新聞本社）
4 受賞記念式典・祝賀会 平成3年9月7日（於 新聞会館）
### 平成3年度会務の概要一覧

#### 「会務」、「研究活動の概要」 「研究会・研究会関連機関」 一般事項・手数料等

<table>
<thead>
<tr>
<th>日</th>
<th>「会務」、「研究活動の概要」、「研究会・研究会関連機関」</th>
<th>一般事項・手数料等</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>16</td>
<td>保健情報学会（当大学所属）の催講会</td>
<td>-</td>
</tr>
<tr>
<td>17</td>
<td>保健情報学会（当大学所属）の催講会</td>
<td>-</td>
</tr>
<tr>
<td>18</td>
<td>保健情報学会（当大学所属）の催講会</td>
<td>-</td>
</tr>
<tr>
<td>19</td>
<td>保健情報学会（当大学所属）の催講会</td>
<td>-</td>
</tr>
<tr>
<td>20</td>
<td>保健情報学会（当大学所属）の催講会</td>
<td>-</td>
</tr>
<tr>
<td>21</td>
<td>保健情報学会（当大学所属）の催講会</td>
<td>-</td>
</tr>
<tr>
<td>22</td>
<td>保健情報学会（当大学所属）の催講会</td>
<td>-</td>
</tr>
<tr>
<td>23</td>
<td>保健情報学会（当大学所属）の催講会</td>
<td>-</td>
</tr>
<tr>
<td>24</td>
<td>保健情報学会（当大学所属）の催講会</td>
<td>-</td>
</tr>
<tr>
<td>25</td>
<td>保健情報学会（当大学所属）の催講会</td>
<td>-</td>
</tr>
<tr>
<td>26</td>
<td>保健情報学会（当大学所属）の催講会</td>
<td>-</td>
</tr>
<tr>
<td>27</td>
<td>保健情報学会（当大学所属）の催講会</td>
<td>-</td>
</tr>
<tr>
<td>28</td>
<td>保健情報学会（当大学所属）の催講会</td>
<td>-</td>
</tr>
<tr>
<td>29</td>
<td>保健情報学会（当大学所属）の催講会</td>
<td>-</td>
</tr>
<tr>
<td>30</td>
<td>保健情報学会（当大学所属）の催講会</td>
<td>-</td>
</tr>
</tbody>
</table>

#### 「研究活動の概要」

<table>
<thead>
<tr>
<th>日</th>
<th>「研究活動の概要」</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>1</td>
<td>研究活動概要1</td>
</tr>
<tr>
<td>2</td>
<td>研究活動概要2</td>
</tr>
<tr>
<td>3</td>
<td>研究活動概要3</td>
</tr>
<tr>
<td>4</td>
<td>研究活動概要4</td>
</tr>
<tr>
<td>5</td>
<td>研究活動概要5</td>
</tr>
<tr>
<td>6</td>
<td>研究活動概要6</td>
</tr>
<tr>
<td>7</td>
<td>研究活動概要7</td>
</tr>
<tr>
<td>8</td>
<td>研究活動概要8</td>
</tr>
<tr>
<td>9</td>
<td>研究活動概要9</td>
</tr>
<tr>
<td>10</td>
<td>研究活動概要10</td>
</tr>
<tr>
<td>11</td>
<td>研究活動概要11</td>
</tr>
<tr>
<td>12</td>
<td>研究活動概要12</td>
</tr>
<tr>
<td>13</td>
<td>研究活動概要13</td>
</tr>
<tr>
<td>14</td>
<td>研究活動概要14</td>
</tr>
<tr>
<td>15</td>
<td>研究活動概要15</td>
</tr>
<tr>
<td>16</td>
<td>研究活動概要16</td>
</tr>
<tr>
<td>17</td>
<td>研究活動概要17</td>
</tr>
<tr>
<td>18</td>
<td>研究活動概要18</td>
</tr>
<tr>
<td>19</td>
<td>研究活動概要19</td>
</tr>
<tr>
<td>20</td>
<td>研究活動概要20</td>
</tr>
<tr>
<td>21</td>
<td>研究活動概要21</td>
</tr>
<tr>
<td>22</td>
<td>研究活動概要22</td>
</tr>
<tr>
<td>23</td>
<td>研究活動概要23</td>
</tr>
<tr>
<td>24</td>
<td>研究活動概要24</td>
</tr>
<tr>
<td>25</td>
<td>研究活動概要25</td>
</tr>
<tr>
<td>26</td>
<td>研究活動概要26</td>
</tr>
<tr>
<td>27</td>
<td>研究活動概要27</td>
</tr>
<tr>
<td>28</td>
<td>研究活動概要28</td>
</tr>
<tr>
<td>29</td>
<td>研究活動概要29</td>
</tr>
<tr>
<td>30</td>
<td>研究活動概要30</td>
</tr>
</tbody>
</table>

#### 一般事項・手数料等

<table>
<thead>
<tr>
<th>日</th>
<th>一般事項・手数料等</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>1</td>
<td>一般事項・手数料等1</td>
</tr>
<tr>
<td>2</td>
<td>一般事項・手数料等2</td>
</tr>
<tr>
<td>3</td>
<td>一般事項・手数料等3</td>
</tr>
<tr>
<td>4</td>
<td>一般事項・手数料等4</td>
</tr>
<tr>
<td>5</td>
<td>一般事項・手数料等5</td>
</tr>
<tr>
<td>6</td>
<td>一般事項・手数料等6</td>
</tr>
<tr>
<td>7</td>
<td>一般事項・手数料等7</td>
</tr>
<tr>
<td>8</td>
<td>一般事項・手数料等8</td>
</tr>
<tr>
<td>9</td>
<td>一般事項・手数料等9</td>
</tr>
<tr>
<td>10</td>
<td>一般事項・手数料等10</td>
</tr>
<tr>
<td>11</td>
<td>一般事項・手数料等11</td>
</tr>
<tr>
<td>12</td>
<td>一般事項・手数料等12</td>
</tr>
<tr>
<td>13</td>
<td>一般事項・手数料等13</td>
</tr>
<tr>
<td>14</td>
<td>一般事項・手数料等14</td>
</tr>
<tr>
<td>15</td>
<td>一般事項・手数料等15</td>
</tr>
<tr>
<td>16</td>
<td>一般事項・手数料等16</td>
</tr>
<tr>
<td>17</td>
<td>一般事項・手数料等17</td>
</tr>
<tr>
<td>18</td>
<td>一般事項・手数料等18</td>
</tr>
<tr>
<td>19</td>
<td>一般事項・手数料等19</td>
</tr>
<tr>
<td>20</td>
<td>一般事項・手数料等20</td>
</tr>
<tr>
<td>21</td>
<td>一般事項・手数料等21</td>
</tr>
<tr>
<td>22</td>
<td>一般事項・手数料等22</td>
</tr>
<tr>
<td>23</td>
<td>一般事項・手数料等23</td>
</tr>
<tr>
<td>24</td>
<td>一般事項・手数料等24</td>
</tr>
<tr>
<td>25</td>
<td>一般事項・手数料等25</td>
</tr>
<tr>
<td>26</td>
<td>一般事項・手数料等26</td>
</tr>
<tr>
<td>27</td>
<td>一般事項・手数料等27</td>
</tr>
<tr>
<td>28</td>
<td>一般事項・手数料等28</td>
</tr>
<tr>
<td>29</td>
<td>一般事項・手数料等29</td>
</tr>
<tr>
<td>30</td>
<td>一般事項・手数料等30</td>
</tr>
</tbody>
</table>

#### 「研究会・研究会関連機関」

<table>
<thead>
<tr>
<th>日</th>
<th>「研究会・研究会関連機関」</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>1</td>
<td>研究会概要1</td>
</tr>
<tr>
<td>2</td>
<td>研究会概要2</td>
</tr>
<tr>
<td>3</td>
<td>研究会概要3</td>
</tr>
<tr>
<td>4</td>
<td>研究会概要4</td>
</tr>
<tr>
<td>5</td>
<td>研究会概要5</td>
</tr>
<tr>
<td>6</td>
<td>研究会概要6</td>
</tr>
<tr>
<td>7</td>
<td>研究会概要7</td>
</tr>
<tr>
<td>8</td>
<td>研究会概要8</td>
</tr>
<tr>
<td>9</td>
<td>研究会概要9</td>
</tr>
<tr>
<td>10</td>
<td>研究会概要10</td>
</tr>
<tr>
<td>11</td>
<td>研究会概要11</td>
</tr>
<tr>
<td>12</td>
<td>研究会概要12</td>
</tr>
<tr>
<td>13</td>
<td>研究会概要13</td>
</tr>
<tr>
<td>14</td>
<td>研究会概要14</td>
</tr>
<tr>
<td>15</td>
<td>研究会概要15</td>
</tr>
<tr>
<td>16</td>
<td>研究会概要16</td>
</tr>
<tr>
<td>17</td>
<td>研究会概要17</td>
</tr>
<tr>
<td>18</td>
<td>研究会概要18</td>
</tr>
<tr>
<td>19</td>
<td>研究会概要19</td>
</tr>
<tr>
<td>20</td>
<td>研究会概要20</td>
</tr>
<tr>
<td>21</td>
<td>研究会概要21</td>
</tr>
<tr>
<td>22</td>
<td>研究会概要22</td>
</tr>
<tr>
<td>23</td>
<td>研究会概要23</td>
</tr>
<tr>
<td>24</td>
<td>研究会概要24</td>
</tr>
<tr>
<td>25</td>
<td>研究会概要25</td>
</tr>
<tr>
<td>26</td>
<td>研究会概要26</td>
</tr>
<tr>
<td>27</td>
<td>研究会概要27</td>
</tr>
<tr>
<td>28</td>
<td>研究会概要28</td>
</tr>
<tr>
<td>29</td>
<td>研究会概要29</td>
</tr>
<tr>
<td>30</td>
<td>研究会概要30</td>
</tr>
</tbody>
</table>
新潟県中学校教育研究会会則

第一章  原則

第1条 この会は新潟県中学校教育研究会をもとな事務局を積変の間新潟県中学校会事務局に設ける。

第2条 この会は本県中学校教育の研究活動を推進しその振興発展をはかることを目的とする。

第3条 この会は前条の目的を達成するため次の事項を行う。
1. 中学校教育の振興発展に関する研究発表
2. 講義会、講演会、研究発表等の開催及び研究の発表
3. 研究成果、調査資料等の刊行
4. その他この会の目的達成に必要な事項

第二章 組織

第4条 この会は本県中学校の教員を会員として構成する各部中学校教育研究会を単位として組織する。

第5条 この会に次の部会を設ける。
国語部会  外国語部会 数学部会  社会部会  理科部会  美術部会
保健体育部会  技術・家庭部会  英語部会  道徳部会  特別活動部会
生徒指導部会  進路指導部会  学校経営部会  連絡部会

第三章 機関

第6条 この会に次のに機関を設ける。
1. 評議員会  2. 理事会  3. 部会長

第7条 評議員会は各部の中学校教育研究会長及び、全県部長をもって構成する審議機関で、次の事項を議決する。
1. 会則並びに組織等の制定および変更
2. 事業計画
3. 予算の審議及び決算の承認
4. 役員の選任
5. 会則の廃止

第8条 理事会は都市中学校教育研究会から互選した4名及び全県部長から互選した3名及び、事務局長をもって構成する執行機関で、次の任務を行う。
1. 会務の企画及び運営
2. 緊急事項の処理

第9条 部会長は各部会の部会長をもって構成する連絡機関で、部会相互の連絡協調を行う。
部会長は評議員会に合わせて開催することができる。

第10条 会議は会長が召集する。

新潟県中学校教育研究会運営細則

第1条 (目的) この細則は新潟県中学校教育研究会附属第16条により地区並びに部会組織等運営に関する事項を定めることを目的とする。

第2条 (会長・副会長の選任) この会の会長・副会長は当分の間新潟県中学校会の会長・副会長を評議員会で推選決定するものとする。

第3条 (会計監査の選任) 会計監査は、校長・教頭・教諭の各1名を評議員会で選出する。

第4条 (事務局長の選任) 事務局長は会長が委嘱し本会の理事として兼ねるものとする。

第5条 (地区の組織) 本会の活動を推進するため各都市中学校教育研究会をそれぞれ上越・中越・下越部と佐渡・鷹狩の4地区に分設する。

第6条 (地区会長・副会長) 会長の各地区に地区会長1名、地区副会長1名を設け、地区会長・副会長は地区内の都市中学校教育研究会の会長・副会長を本会の理事とする。ただし、県会長・副会長は除く。

第7条 (部会組織) 各部中学校教育研究会はそれぞれ会則第5条の部会を設置するものとする。

第8条 (会長及び副会長) 各部会の部長はその部会を代表し部会活動を総理する。

第9条 (副部長) 各部部長はその部会を代表し部会活動を総理する。

第10条 (選任) 各部部長はその部会の部長を互選し、部会長を兼ねるものとする。

第11条 (会計監査) 会計の監査は年度末に行う。

第12条 (附則) この運営細則は昭和42年7月21日から施行する。
昭和43年6月17日細則の一部変更
昭和57年10月12日細則の一部変更
昭和62年2月27日細則の一部変更
新潟県中学校教育研究会の共催及び後援に関する規程

第1条 目的
この規程は新潟県中学校教育研究会（以下「県中教研」という）及び、県中教研以外のものを行う教育関係事業（以下「事業」という）を共同主催及び後援することに関して必要な事項を定めるものとする。

第2条 共催・後援の定義
1 共催・事業の企画又は運営に参画し共同主催者としての責任を分担することをいう。
2 後援・事業の主催に賛同し、その開催を援助することをいう。

第3条 承認の基準
事業の主催者が当該事業の共催又は後援の申請があったときは、次の各号に掲げる承認基準により、当該事業の共催又は後援の承認を行うものとする。
1 主催者が次の承認基準に該当するものに該当する主催者とする。
(1) 事業の主催者が当該事業に関与するもので、目的を目的としている事業であること。
(2) 事業の内容が、宗教的または政治的活動を認められるものは除く。
(3) 県中教研の主催及び後援に反しないものであること。

第4条 事務手続
1 事業の主催者が行う申請又は後援の申請は別記1号様式によるものとして事業実施30日前までに提出させるものとする。
2 前記の申請を受理したときは、承認するかどうかを決定し事業の主催者に通知するものとする。

第5条 報告
後援した事業について、県中教研の運営上必要があると認められるときは、事業の主催者に対し、別記第3号様式による報告書の提出を求めるものとする。

第6条 経費
経費の負担は原則として行わないものとする。

第7条 承認の取消し
事業者が当該事業の実施にあたり申請内容と異った場合は承認を取消すことができる。

附则
1 この規程の改廃については、評議員会において審議決定する。
2 この規程は昭和47年10月12日から施行する。
新潟県中学校教育研究会役員表彰に関する内規

1 本会は次の役員が退職及び退任した場合に、感謝状を贈呈し謝意を表する。
   1. 本部役員・理事が退職した場合
   2. 本部役員が退任した場合
2 本内規によりかいたい場合は、理事会において協議する。
3 本内規は、平成2年3月31日から適用する。

平成2年2月23日決定

「研究活動の概要」Vo.1．15 (平成3年度)

発行年月日 平成4年2月28日
発 行 新潟県中学校教育研究会
発行責任者 梅　山　雄　雄
編集責任者 安　藤　耕　平
発行者 〒951 新潟市学校町通1-8 新川ビル内
新潟県中学校教育研究会事務局
電 話 (025) 228-1921
FAX (025) 229-1011
郵便局 楽四銀行東中通支店 0509019

印刷所 栗プリント社